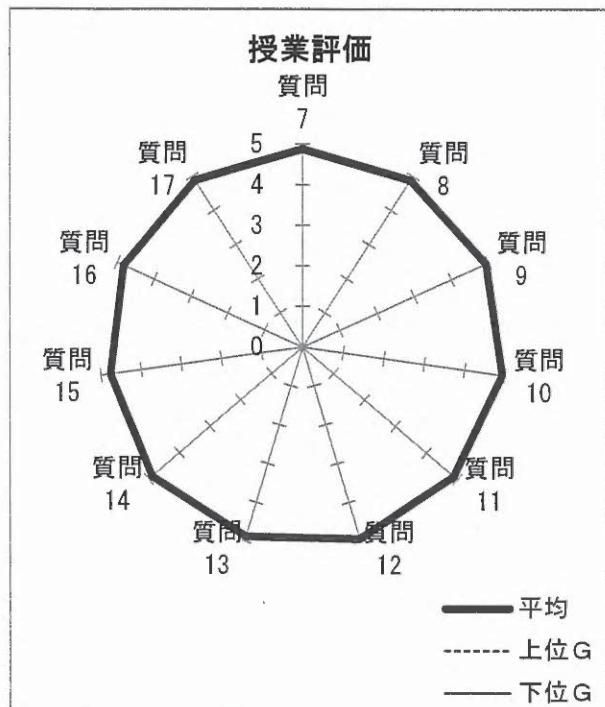


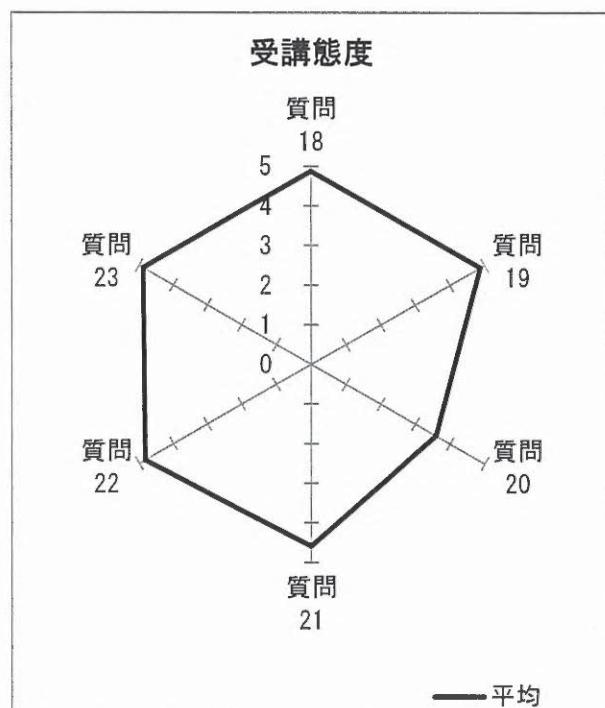
科目コード 110 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 香川 実成 SPI非言語分野対策演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	3.6
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.6

- 質問18 : (自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	英語学科	香川実成	SPI 非言語分野対策演習	17

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業内容はe-Learning用ビデオ教材なので、平均4.9とはいっても、それは担当者の能力によるものではなく、学生自身が努力したこと、及び、ビデオ教材のレベルが受講生の数学の能力・理解度と合致していたためであろう。

しかし一方で、毎回配付するエクストラ課題については、出版されているSPI問題集を相当数吟味・比較した上で厳選したつもりである。就職活動が始まるまでに、できるだけ多くの良質な応用問題を解いて力をつけてほしいとの願いから、授業外の学習時間を確保するよう工夫した。

II. 2018年度に向けての取り組み

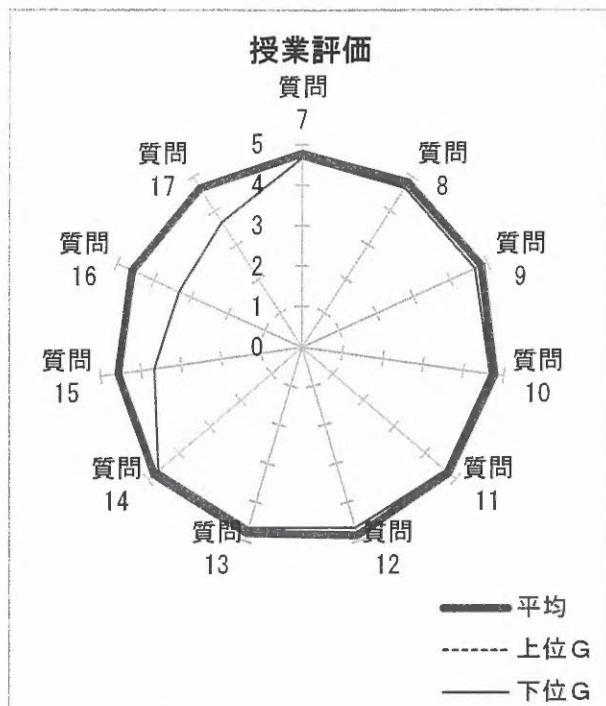
2018年度担当予定科目名：SPI 非言語分野対策演習

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

前述のエクストラ課題は、今回は成績評価に入れず、任意の取組みとした。2018年度はこれを成績評価に組み入れ、授業外での取組みをきちんと、客観的に評価できるよう改善する。

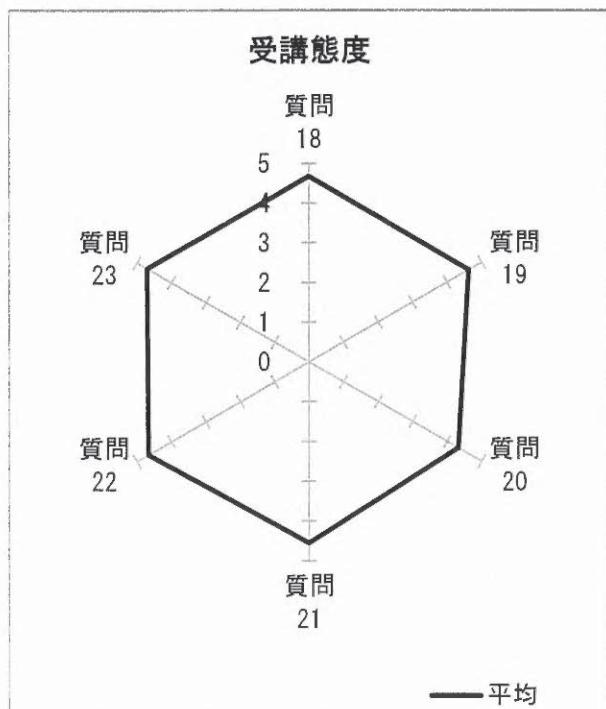
科目コード 132 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Sheila Norris キリスト教学 II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	4.7
質問8	4.8	4.8	4.7
質問9	4.8	4.9	4.7
質問10	4.8	4.8	4.7
質問11	4.8	4.8	4.7
質問12	4.9	4.9	4.7
質問13	4.8	4.8	4.7
質問14	4.8	4.8	4.7
質問15	4.6	4.6	3.7
質問16	4.6	4.7	3.3
質問17	4.7	4.7	3.7
平均	4.8	4.8	4.4

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.3
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.6

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	英語学科	Sheila Norris	キリスト教学 II	51

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

I am very pleased with these results. At the beginning of the year it was very clear that my usual approach and the students' learning styles did not match, and that unless I made a lot of effort to keep them involved, they were going to be very tempted to sleep. I had to try a lot of different techniques and class plans, and even at the end I was still not sure I was getting it right, so I am happy that the students seem positive.

II. 2018年度に向けての取り組み

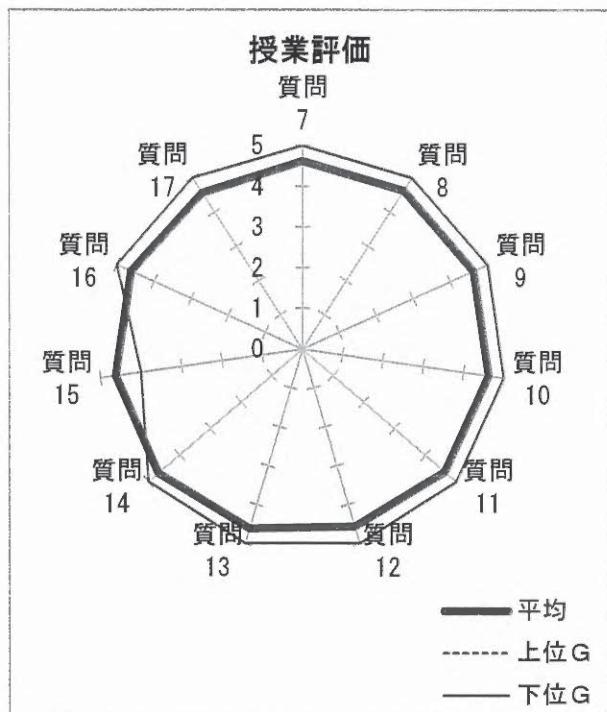
2018年度担当予定科目名：キリスト教学 II、III

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

As I will teach the same group of students for Christian Studies III in the coming year, the plan from the beginning will be student-centered and focused around student presentations. For Christian Studies II, I will again try the variety of approaches that I used last year and see which one(s) best fit the different class needs.

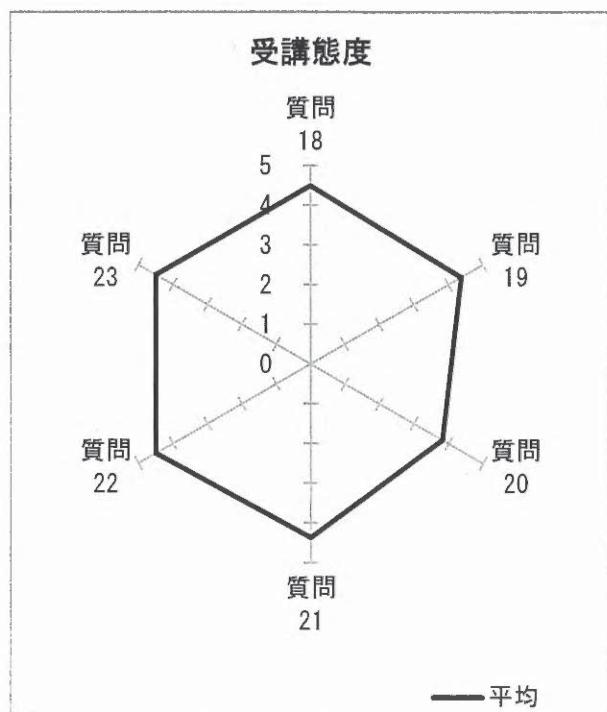
科目コード 140 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Richard Bent 英語 II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	5.0
質問 8	4.6	4.6	5.0
質問 9	4.6	4.6	5.0
質問10	4.6	4.6	5.0
質問11	4.6	4.6	5.0
質問12	4.6	4.5	5.0
質問13	4.6	4.6	5.0
質問14	4.7	4.7	5.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.6	4.6	5.0
質問17	4.6	4.5	5.0
平均	4.6	4.6	4.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.4
質問20	3.8
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	英語 II	15

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This course teaches students basic paragraph structure for English academic writing. As such, students must be able to understand and produce paragraphs on a variety of subjects, in this case relating to Japanese society, culture, and language. Judging from the feedback from the students, it appears they believed this class was useful and productive. The feedback was generally very favorable.

II. 2018年度に向けての取り組み

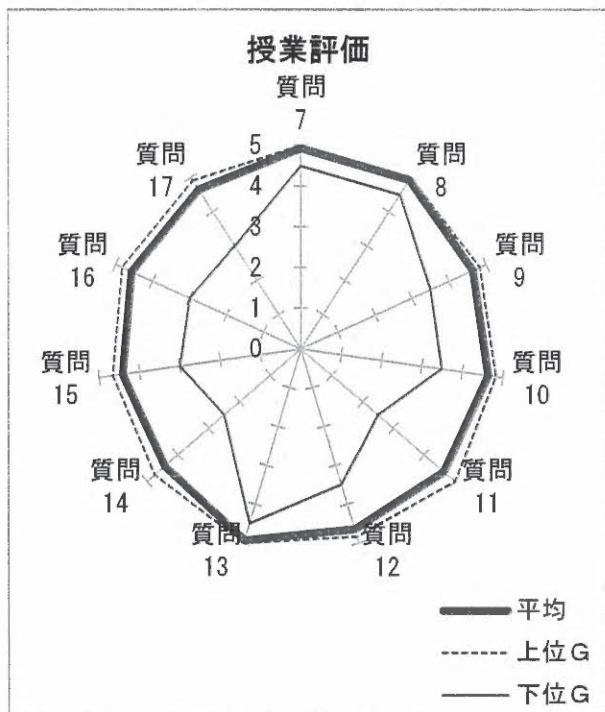
2018年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

As this course seems to have been a positive experience for the students, I see no reason to change the approach with one exception. In this year's class, I used prints that I mostly wrote myself, but I feel the students would benefit more from an actual textbook. Therefore, I plan to introduce a text to the class next year (specifically *Writing Paragraphs from Sentences to Paragraphs* by D. Zemach and C. Islam published by MacMillan).

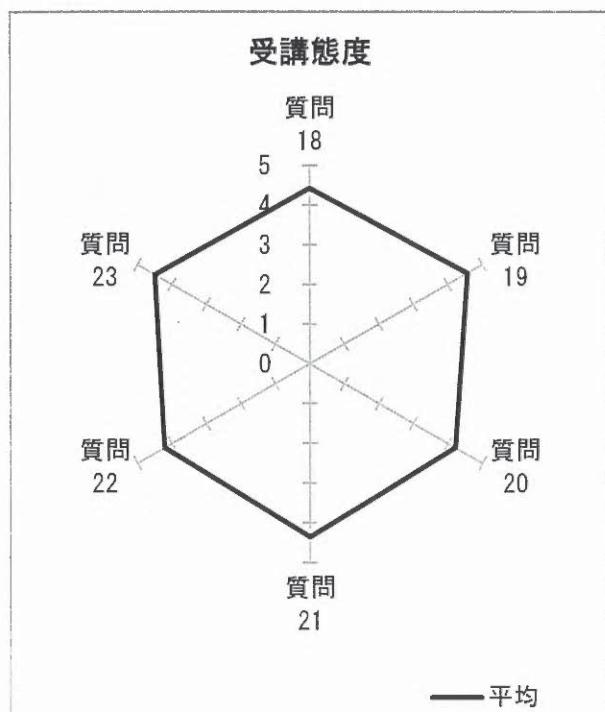
科目コード 143 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Richard Bent 英語 IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	5.0	4.5
質問 8	4.9	5.0	4.5
質問 9	4.6	4.8	3.5
質問10	4.6	4.8	3.5
質問11	4.6	5.0	2.5
質問12	4.6	4.8	3.5
質問13	4.9	5.0	4.5
質問14	4.4	4.8	2.5
質問15	4.4	4.7	3.0
質問16	4.6	4.8	3.0
質問17	4.6	4.9	3.0
平均	4.7	4.9	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.6
質問20	4.2
質問21	4.4
質問22	4.2
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	英語学科	リチャード・ベント	英語 IV	12

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This course is a continuation of 英語 III. The aim of the course is to familiarize students with academic essay composition and introduce them to research. Looking at the feedback, it appears the students found this semester challenging. I believe the research essay was perhaps too hard for many of the students, however, having said that, it is an important part of written English at university level and they do need to understand it.

II. 2018年度に向けての取り組み

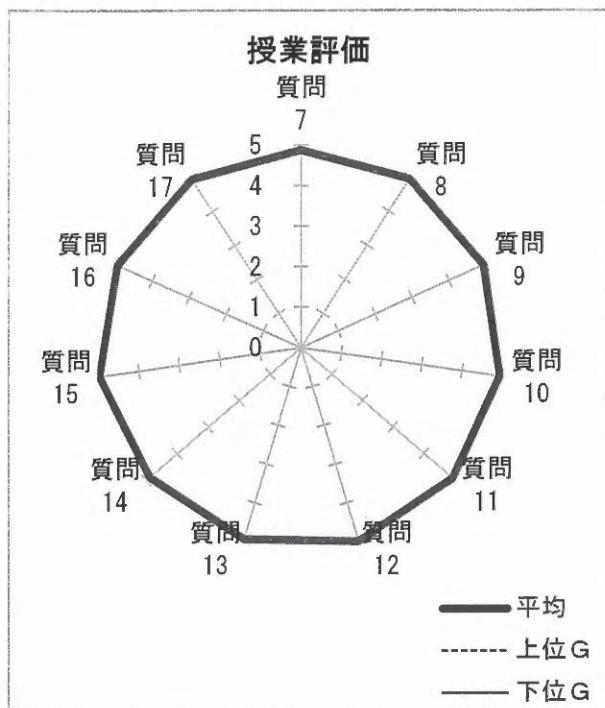
2018年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

This year's research essay was very difficult for many of the students in this class (they were the middle group out of three ability levels). I do feel strongly that students need to attempt a research paper, but perhaps need to be guided more. The next time I teach this course, aside from giving the topic of the essay, I think it would be helpful to provide research materials as well. Perhaps the hardest part of the assignment was actually looking for suitable materials to support their ideas, so that problem should be alleviated as much as possible.

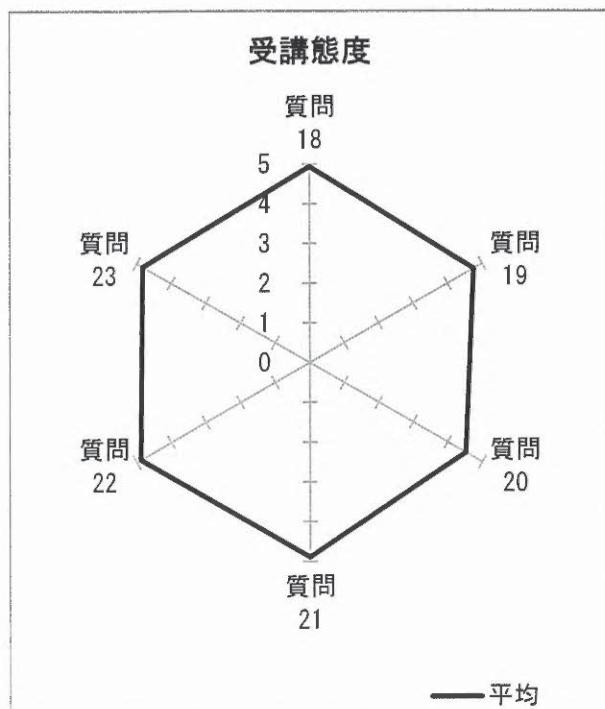
科目コード 147 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 Andrew Gorringe 英語 IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.5
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.8
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
Faculty of International Culture	Department of English	Andrew Gorringe	Eigo IV	17

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

This class had 17 students and all of them were present for the evaluation. The class was held once a week on Monday afternoons (periods V – VI). The textbook that was used was Academic Writing Skills 1 (Cambridge UP)

From the evaluation it is clear that the students found the class useful and enjoyable. I felt that the students made a great effort in this class to improve their writing skills, and the quality of their work reflected this. The students set writing goals using the European Language Portfolio and used these goals to improve upon their work. I thought the students were excellent in this class.

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：Andrew Gorringe

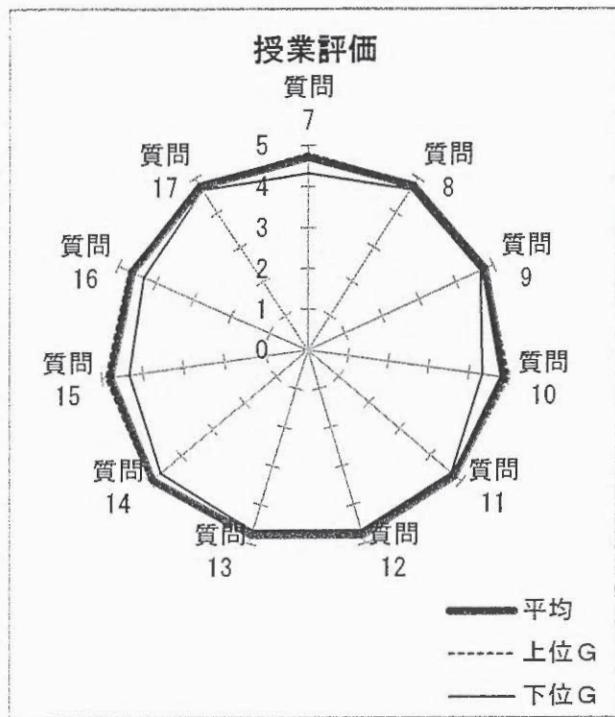
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

Next year I hope to be teaching the same class. I will teach it in much the same way, although if there is a new edition of the textbook I think I will use that. I hope the students next year will also improve their writing skills as much as this year's students did.

科目コード 201 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科 石井 奈緒

批判的に考え、意見を発信するためにA



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.8	4.3
質問 8	4.8	4.8	4.7
質問 9	4.8	4.8	4.7
質問 10	4.9	5.0	4.3
質問 11	4.8	4.8	4.7
質問 12	4.8	4.8	4.7
質問 13	4.8	4.8	4.7
質問 14	4.9	5.0	4.7
質問 15	4.8	4.9	4.3
質問 16	4.6	4.7	4.3
質問 17	4.8	4.8	4.7
平均	4.8	4.9	4.5

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

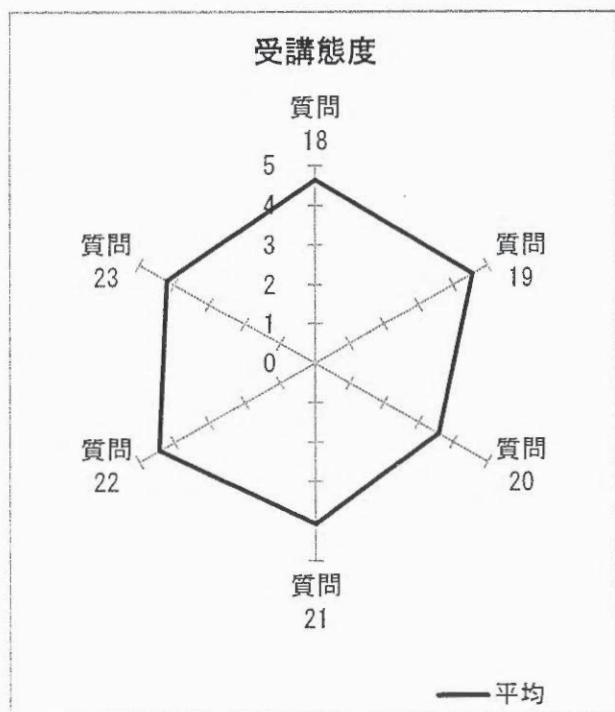
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.6
質問21	4.1
質問22	4.4
質問23	4.2
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	石井 奈緒	批判的に考え、意見を発信するために A	14

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「批判的に考え、意見を発信するために A」は文学部共有科目で、前期の「社会を読み、他者と向き合うために」とともに 6 単位が選択必修となっている。このため文学部の学生は 2 年次に上記二つの科目を履修し、3 年次には「社会を読み、他者と向き合うために」か「批判的に考え、意見を発信するために」のいずれかを履修することになる。これまでの傾向では、3 年次前期に配置された「社会を読み、他者と向き合うために」を履修して必修の単位をそろえる学生が多くなったが、2017 年度は、前期科目が新聞のスクラップを授業の中に取り入れているためこれをさけて、後期科目を履修登録する学生が多くなった。この科目では学期末に学習の成果を大教室に受講者全員が集まってプレゼンテーションするが、従来は 2 回で十分な時間があったが、2017 年度後期に関しては受講者多数のため 2 回のプレゼンテーションではいくつかのグループが時間外に発表することになった。このため、来年度は受講者数やグループワークのグループ数を考慮して、学期末のプレゼンテーションに関して 3 回くらいの共同発表の時間を取ることを想定したい。

授業評価について、受講態度上位グループと下位グループの差がみられた項目について言及すると質問 7、10、15 等に差が見られる。質問 7 は授業の目標説明とシラバスに沿った実施、質問 10 は教材・機器・板書等の効果的な使用、質問 15 自分は授業を理解できたと思うか、である。この科目の目標はシラバスに記述されている通り、量的な調査の技法を習得し、調査を設計して実施することにある。学期の半ばまでは、調査票を作るにあたってのワーディングの問題に取り組み、これを習得したうえで実際に調査票を作り調査を遂行するという流れになる。ワーディングの問題については一つのテキストを基本に、いくつかのテキストを参考しつつ解説を行い、世論調査年鑑を資料にしてここに記載されている質問項目にみられる不適切なワーディングについて、それを指摘して修正する作業を行う。この作業に関しては、比較的容易に誤りを指摘できるダブルバーレルなどから難易度の高いキャリーオーバー効果まで多様性に富むため、受講生の理解度によっては 7・8 回の間に十分に習得するのは難しい、これが質問 15 の自分は授業を理解できたと思うか、のポイントと連動していると思われる。

また、質問 10 に関しては印刷した配布資料、Web 上に公開されている社会調査法についてのコンテンツ、過去の受講者の発表資料などを用いて解説している。使用教室は 131 で二人席の中央にあるディスプレイに教材を提示して説明するが、受講生によっては見えにくい、または解説の速度が速くて十分に理解できないまま、先に進んでしまうことがあったかもしれない。次年度からはこれらに注意しつつ授業を進めていきたい。

II. 2018 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名：批判的に考え、意見を発信するために A

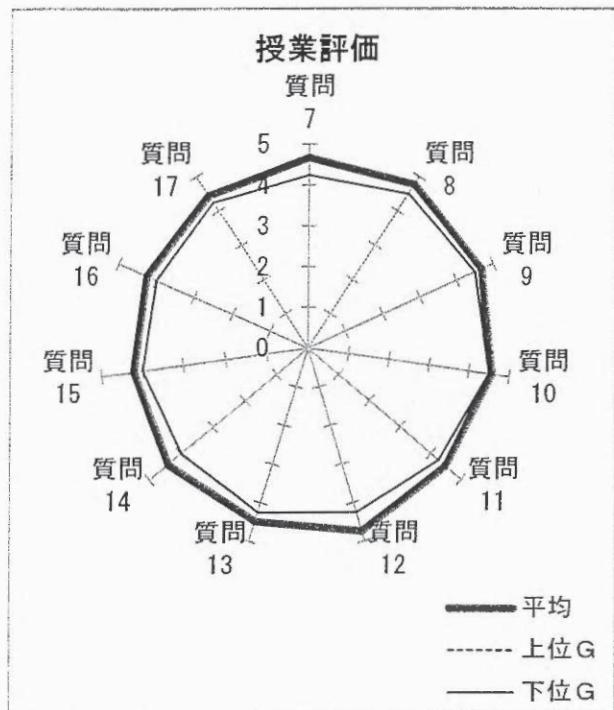
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

この科目は旧カリキュラムの科目であるため、2018 年度の入学者が 3 年次になる 2020 年度まで開講される予定の科目であるが、2019 年度から開始される国際文化学部の新カリキュラムには文学部共有科目がないため、特に 2019 年や 2020 年度には履修指導を丁寧に行い、休学などで履修する機会を逸した学生には、科目の読み替え等を行い適切な指導を行う必要があると思われる。

科目コード 225 (2017年度 後期)

文学部 現代日本文化学科

村元 宏行 教育制度論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.7	4.3
質問 8	4.8	4.8	4.5
質問 9	4.7	4.7	4.5
質問10	4.6	4.6	4.5
質問11	4.5	4.5	4.3
質問12	4.7	4.8	4.3
質問13	4.5	4.5	4.3
質問14	4.4	4.5	4.0
質問15	4.2	4.3	4.0
質問16	4.3	4.3	4.0
質問17	4.5	4.5	4.3
平均	4.5	4.6	4.3

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

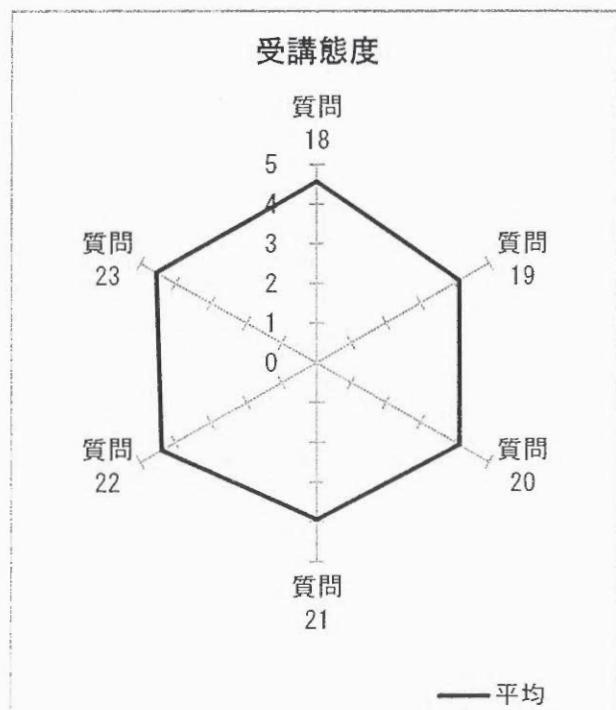
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.1
質問20	4.1
質問21	3.9
質問22	4.4
質問23	4.5
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	村元 宏行	教育制度論	27人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価について、一番評価の低かった項目は「授業を理解できたと思うか」という項目であり、次いで「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」で、次いで「学生の理解度の確認と授業への反映」という項目でした。また、「教員の説明のわかり易さ」についても低い評価しか得られていません。

このことからすると、教育制度は『教育六法』を開き、教育法規の条文を参照しながら授業を行うこともあって難解に感じる学生が多い中で、私が学生の理解度をよく確認せずに一方的な授業を行ってしまっている結果、授業を理解できていない学生が多いものと考えられます。

また、法規の無機質な条文を通じて教育制度を学ぶことが、結果として教職に就くにあたってどのような意義があるかを私が十分に説明できずに授業を行ってしまっている状況があるものと反省しています。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：教育制度論

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度に向けては、教育制度を学ぶことが教職に就くにあたってどのような意義があるかについて十分な説明を行い、学習の動機付けを行うことを意識するようにします。このことはこれまでの授業でも意識はしていましたが、初回ガイドanceで説明するに止まっていたと思うので、それぞれの授業テーマ毎に説明することを心がけます。

また、学生の多くが社会科学を主専攻とはしないことに十分留意し、理解状況について細かく確認しながら授業を進めることとします。

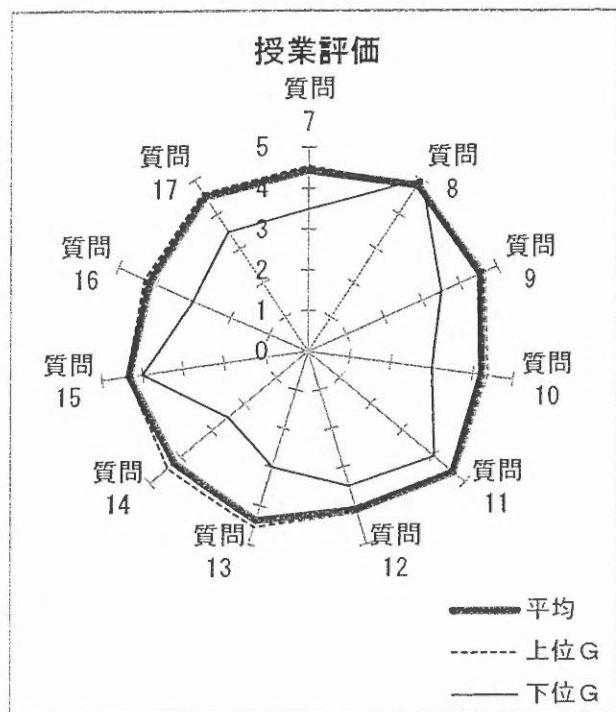
さらに、授業でスクラップを行っている1年生とは異なり、ほとんどの学生が新聞を手にすることはないとのことですので、はじめから学生が自分で授業内容を時事問題と結びつけて考えてくれるのを期待するのではなく、まず授業内で私の方から関連記事を提供するようにし、それによって学生が自分から時事問題に興味を持ってもらえるように促していきます。

科目コード 245

(2017年度 後期)

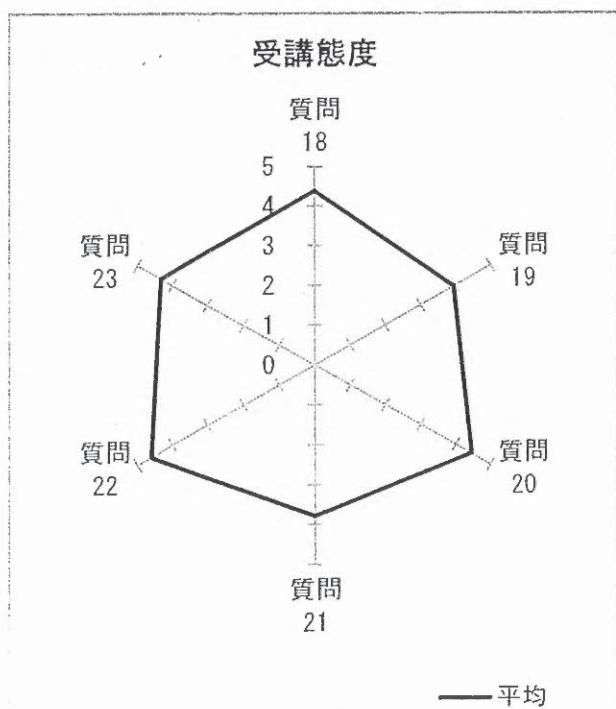
文学部 現代日本文化学科

田浦 知子 図書館概論



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.4	4.6	3.5
質問8	4.8	4.8	5.0
質問9	4.6	4.7	3.5
質問10	4.2	4.4	3.0
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.1	4.2	3.5
質問13	4.4	4.6	3.0
質問14	4.2	4.4	2.5
質問15	4.3	4.4	4.0
質問16	4.2	4.3	3.0
質問17	4.5	4.6	3.5
平均	4.4	4.5	3.5

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	3.9
質問20	4.4
質問21	3.8
質問22	4.6
質問23	4.3
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	現代日本文化学科	田浦 知子	図書館概論	22

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

司書課程の最初の一歩ということで、なるべく実生活・社会的事件とからめて興味を喚起するようにした。書画カメラ等を利用して板書をみやすくするようにした。

質問14の結果を見ると 学生の理解度についての配慮が不足していたことがわかった。この点を今後の授業にいかしたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：図書館概論

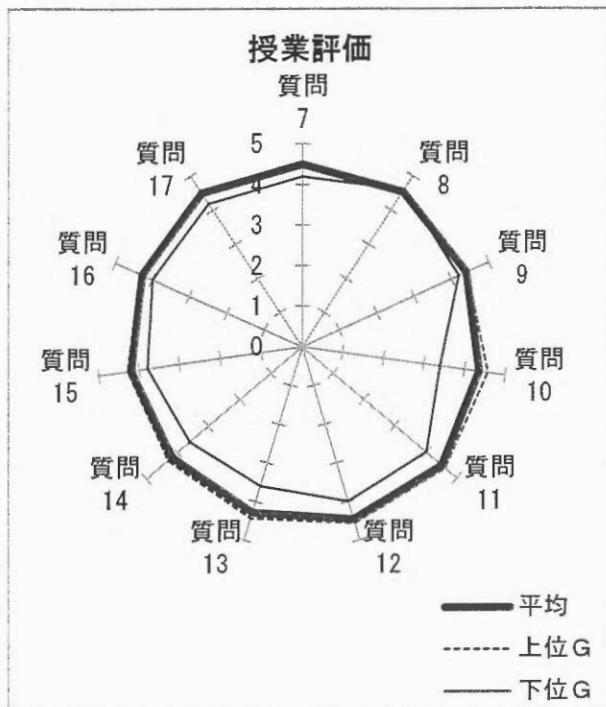
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生の理解度を確認するためのアンケートを実施し、質問の機会を設定したい。

学生の個別の状況を把握するように努めたい。

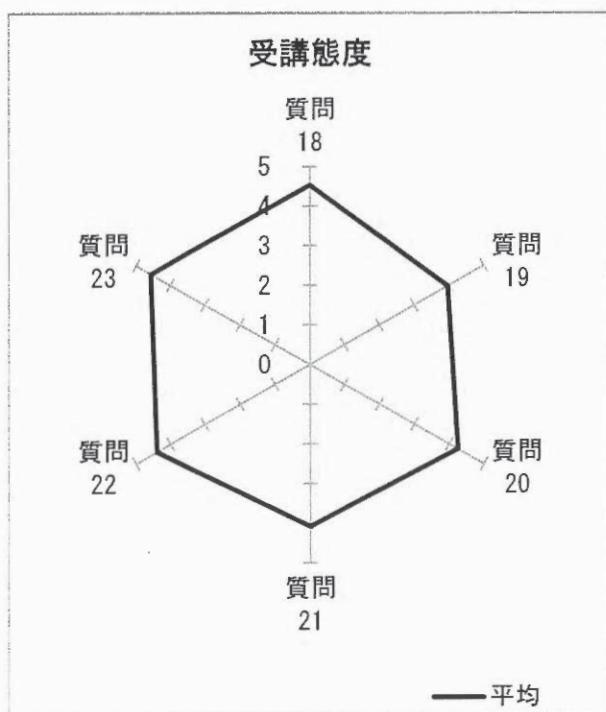
科目コード 360 (2017年度 後期)

文学部 人間関係学科 長尾 博 学校カウンセリング



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.5	4.6	4.2
質問8	4.5	4.5	4.6
質問9	4.4	4.4	4.2
質問10	4.4	4.6	3.4
質問11	4.5	4.6	4.0
質問12	4.5	4.6	4.0
質問13	4.3	4.4	3.6
質問14	4.2	4.3	3.6
質問15	4.2	4.3	3.8
質問16	4.3	4.3	4.0
質問17	4.5	4.6	4.2
平均	4.4	4.5	4.0

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問8：教員の授業時間遵守
- 質問9：教員の話し方
- 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11：教員の説明のわかり易さ
- 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.0
質問20	4.3
質問21	4.1
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文学部	教職科目	長尾 博	学校カウンセリング	23

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

(1) 教材が私の「学校カウンセリング」テキストのみであったため、もの足りなさ、刺激のなさを学生は感じたのかもしれない。

(2) 授業中の学生への質問タイムが少なく、これももの足りなさを感じたのであろう。

II. 2018年度に向けての取り組み

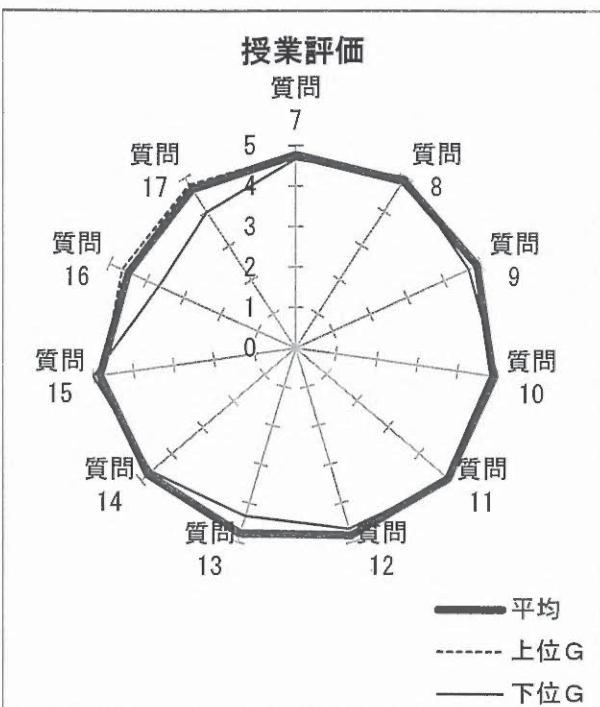
2018年度担当予定科目名：学校カウンセリング

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・テキストのみならず、DVDなどをみせる機会を増やしたい。
- ・質問のタイムを増やして、もう少し刺激的な授業にしたい。

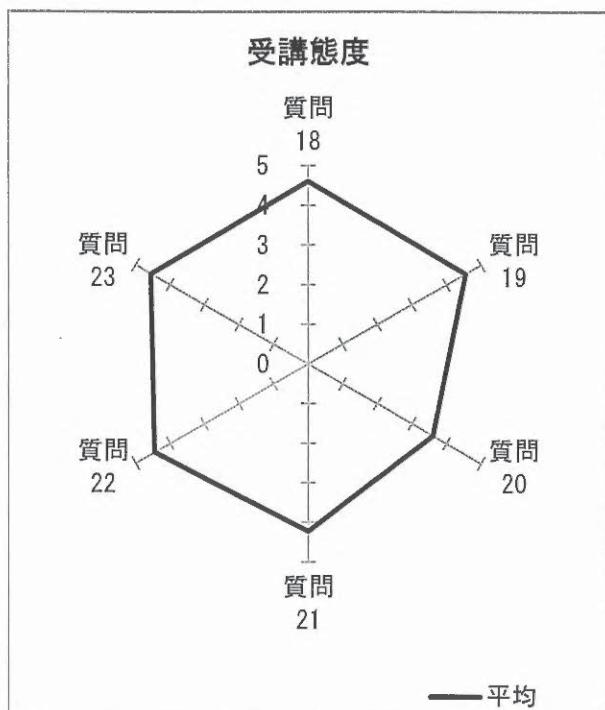
科目コード 401 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 碓井 貴美子 ソルフェージュ I a~IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	4.7
質問8	4.9	4.9	5.0
質問9	4.9	4.9	4.7
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.9	4.7
質問13	4.8	4.9	4.3
質問14	4.8	4.8	4.7
質問15	4.8	4.8	5.0
質問16	4.5	4.7	3.7
質問17	4.7	4.8	4.0
平均	4.8	4.8	4.6

- 質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問8：教員の授業時間遵守
 質問9：教員の話し方
 質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11：教員の説明のわかり易さ
 質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14：学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.6
質問21	4.2
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.3

- 質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21：授業の予習・復習をおこなったか
 質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	碓井貴美子	ソルフェージュ 1a~IVa	15人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

私の担当するソルフェージュのトップクラスでは今までにやってこなかった複雑でややこしいものがあえて沢山授業で取り扱うということをやってまいりました。トップクラスであってもソルフェージュ能力は個人個人でかなりの差があります。その中でクラス授業を行うことは非常に難しく、ましてや難解なものを訓練していくことに、意欲的に付いてくる者、難しさに戸惑う者など千差万別おりますが、継続して行っていくことで、明らかに実力が身についていることは明白です。

音楽の基礎能力を高めることができ、さらなる実技向上へと導かれますので、刺激あるソルフェージュ授業で学生の実技レベル、意欲レベルも上げることができたとおもっております。

II. 2018年度に向けての取り組み

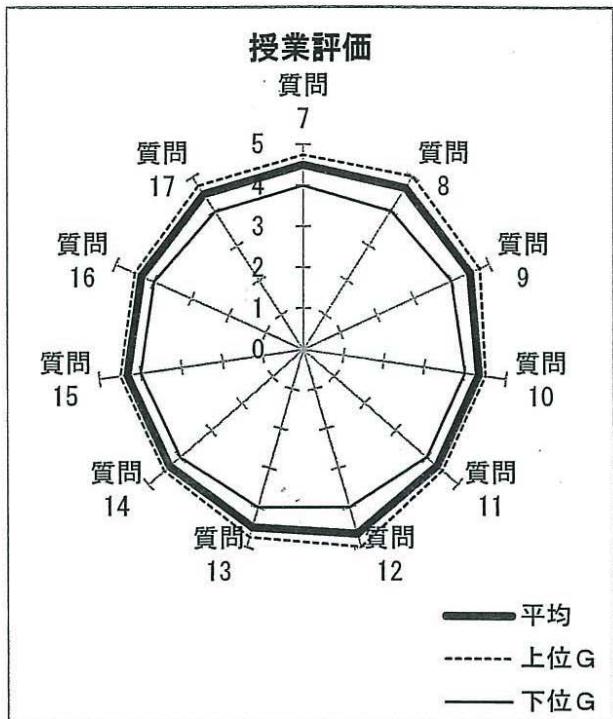
2018年度担当予定科目名：ソルフェージュ 1a~IVa

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2018年度も重ねてソルフェージュのトップクラス担当いたします。初めて音楽科目のソルフェージュという特化した音楽授業を受ける新入生たちも含まれることと思います。まずは基礎力を身につけさせながら、奥深いソルフェージュの世界に少しずつ導いて行けたらと考えております。ソルフェージュの楽しさを知るには、沢山の問題をこなしていくことが一番の近道です。音楽の基礎力を高めつつ学生たちの演奏能力を高めていけるように指導して参りたいと考えております。

科目コード 402 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 草場 紀久子 ソルフェージュ I a~IV a



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.5	4.8	4.0
質問8	4.7	5.0	4.0
質問9	4.5	4.8	4.0
質問10	4.3	4.5	4.0
質問11	4.3	4.5	4.0
質問12	4.7	5.0	4.0
質問13	4.5	4.8	4.0
質問14	4.3	4.5	4.0
質問15	4.3	4.5	4.0
質問16	4.3	4.5	4.0
質問17	4.5	4.8	4.0
平均	4.5	4.7	4.0

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

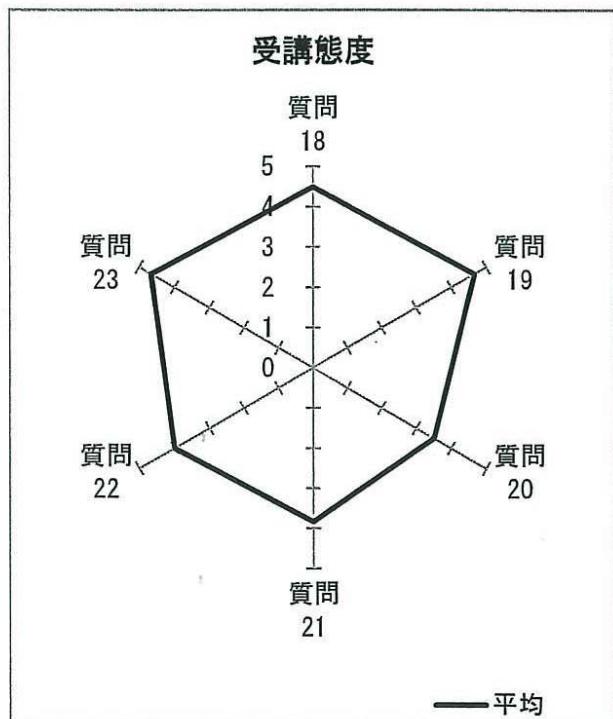
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.7
質問20	3.5
質問21	3.8
質問22	4.0
質問23	4.7
平均	4.2

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	草場 紀久子	ソルフェージュ	7人

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問7～17の各項目に対し、おおむね一定の配慮がなされている結果と分析できる。

以前にこのアンケートで評価の低かった、質問機会の確保に関しては、この数年意識して設けるようにしてきた。その結果、学生の理解度の確認のみならず、説明のわかりやすさ、環境に対する配慮等、効果につながっていると感じている。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ソルフェージュ

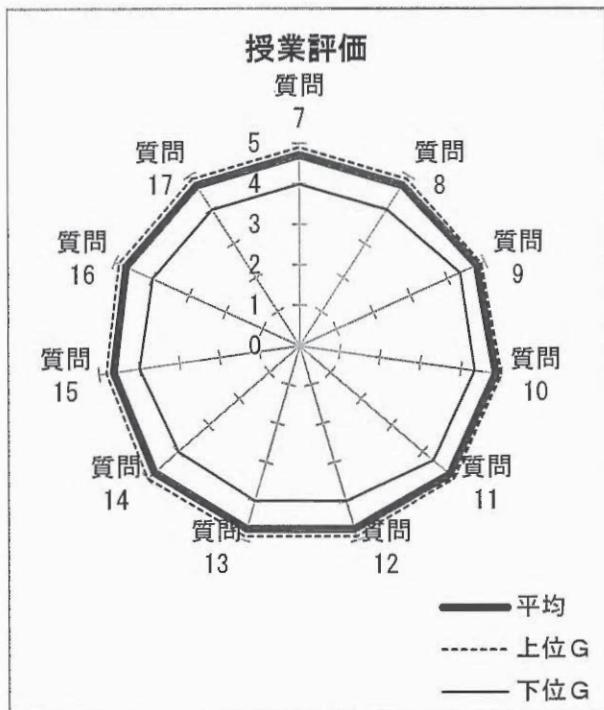
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

授業の予習復習、課題への取り組み、は課題の出し方や設定の仕方を工夫したい。具体的にやったことが目に見える形、学生にとって成果を感じ取れる課題を創出したい。

欠席回数に関しては、木曜の12限、新戸町キャンパスという条件で学生によっては欠席につながりやすい環境かと考えられる。授業内容のみならず、生活のリズム、健康確保など呼び掛け、ひいては授業に対する興味・関心・意欲が高まるよう取り組みたい。

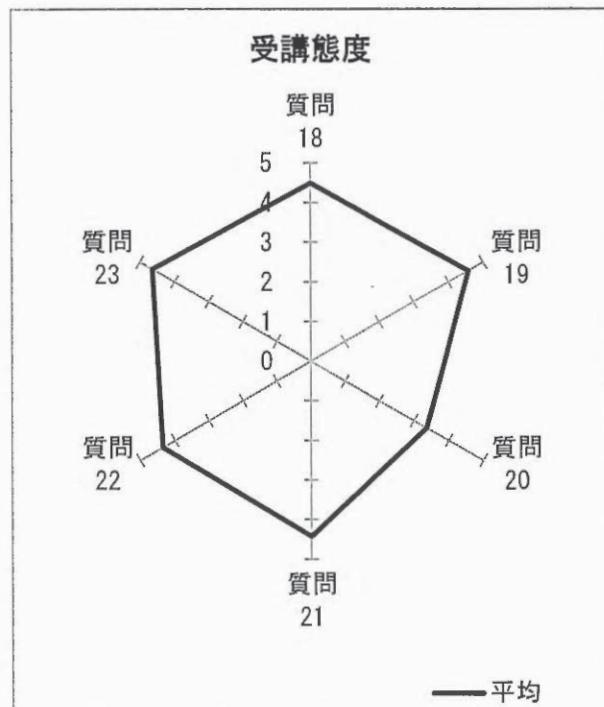
科目コード 413 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 椎名 雄一郎 ソルフェージュ I a~IVa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.7	4.9	4.0
質問 8	4.7	4.9	4.0
質問 9	4.8	4.9	4.3
質問10	4.9	5.0	4.3
質問11	4.9	5.0	4.3
質問12	4.7	4.9	4.0
質問13	4.7	4.9	4.0
質問14	4.8	5.0	4.0
質問15	4.6	4.8	4.0
質問16	4.7	4.9	4.0
質問17	4.7	4.9	4.0
平均	4.7	4.9	4.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.6
質問20	3.4
質問21	4.4
質問22	4.4
質問23	4.6
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	椎名 雄一郎	ソルフェージュ I b~IVb	16

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

ソルフェージュの授業は、クラス別に行われているため、シラバスでは全体の目標が示されているが、具体的な内容は各教員に任せられている。今回の評価で一番の低評価は、学生が授業を理解できたかの設問である。様々な能力を持つ学生がおり、実際に教材など設定は、私自身試行錯誤であった。難しすぎることがあったようである。

その他、授業時間などについては、上位グループと下位グループで約1点の差があることは大変不思議である。同じ授業を受けているのに、評価としてこれほど異なることは理解できない。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ソルフェージュ I b~IVb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

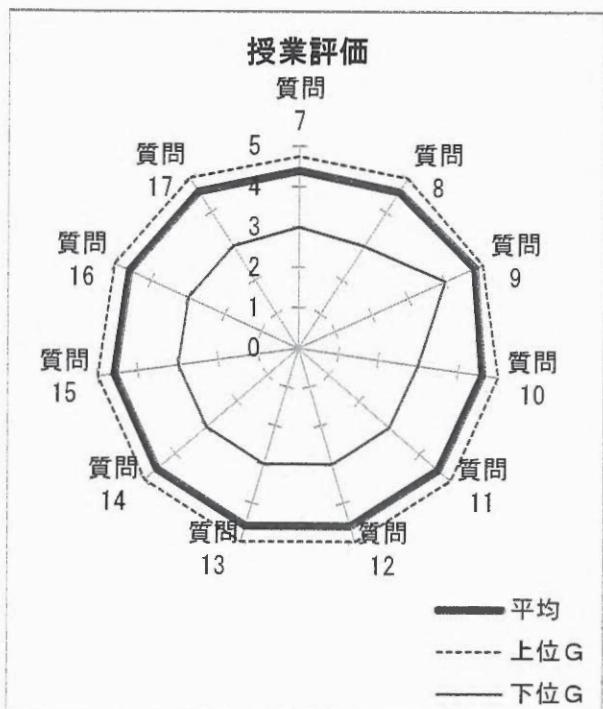
2018年度もソルフェージュを担当する。2017年度は初めて受け持つ科目で試行錯誤の部分もあった。

2018年度はより学生1人1人の進度に気を配りながら、授業を進めていきたい。

ソルフェージュは、音楽の基本である。少人数の授業であるから、学生1人1人にある程度私自身が目標設定をして臨むことも重要であると感じた。学生の苦手な部分を把握し、各学生のソルフェージュ能力向上に取り組みたい。

科目コード 415 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 加藤 豊 即興演奏 IIb



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.8	3.0
質問 8	4.6	5.0	3.0
質問 9	4.8	5.0	4.0
質問10	4.6	5.0	3.0
質問11	4.6	5.0	3.0
質問12	4.6	5.0	3.0
質問13	4.6	5.0	3.0
質問14	4.6	5.0	3.0
質問15	4.6	5.0	3.0
質問16	4.6	5.0	3.0
質問17	4.6	5.0	3.0
平均	4.6	5.0	3.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

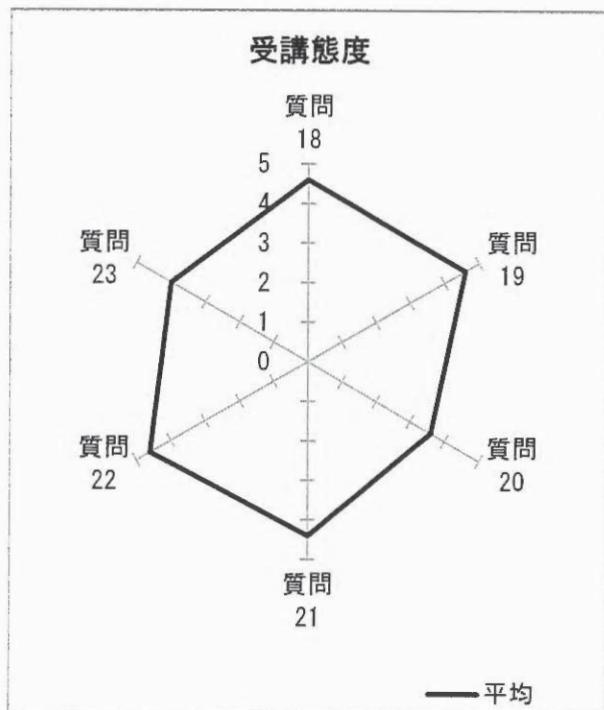
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	3.6
質問21	4.4
質問22	4.6
質問23	4.0
平均	4.3

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	加藤豊	即興演奏Ⅱb	5

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回の授業の経緯については、毎年と少し違った傾向の学生がいた。

これは、どのような授業科目でもありうることかも知れない。

つまり、この講義の到達目標、学ぼうとしていることの内容が理解できない、

シラバスに記載された、ヤマハグレード受験のための準備講座という趣旨に納得できないという事である。自分の持っている即興という分野のイメージとは違った、メゾードで学びを進める現状に疑問や、不満を感じるということである。このような学生がいた場合、ここでの学びは決して音楽教室用のものばかりではなく、ある部分、普遍的な伴奏付け、弾き歌いなどの知識を学ぶ機会であることを、再三説明している。つまりヤマハ、カワイという特定の領域ではなく、ここで学ぶことは、教職や、子供を相手にする、例えば幼稚園、保育園での弾き語りの実践のための基礎に他ならないのである。また、芸術的ないわゆる作曲に通じる、即興演奏の技術の習得には、この先何年もの研鑽を必要とする事を、理解してほしいと思う。それらすべての基礎を学ぶのがこの講義である事を理解させたい。

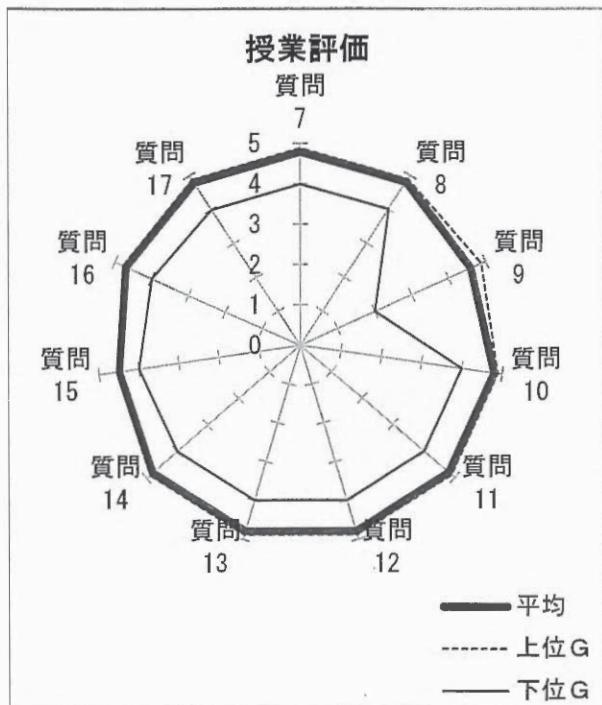
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：即興演奏Ⅱb

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) 今年度で、退職。しかし、来年度は一応、あと一年即興演奏Ⅱb の科目を受け持つことになるので、意義のある講義を続けたいと考えている。

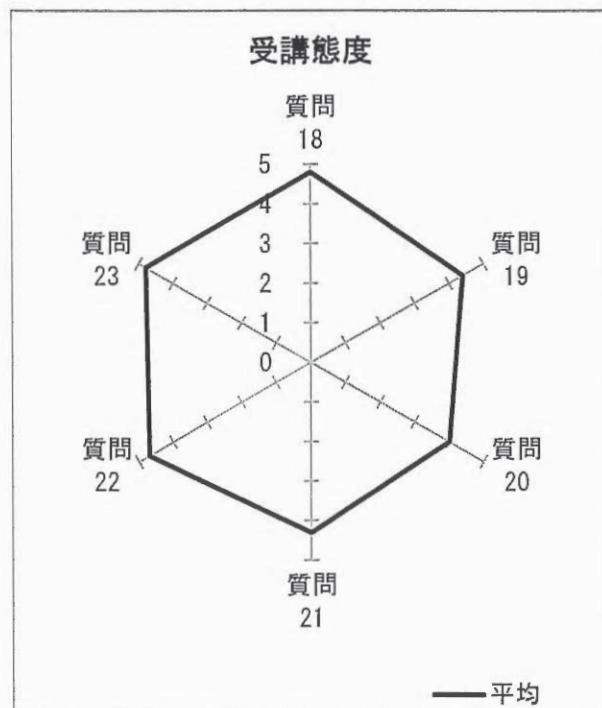
科目コード 417 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 吉田 峰明 編曲法



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.6	4.9	2.0
質問10	4.8	4.9	4.0
質問11	4.8	4.9	4.0
質問12	4.8	4.9	4.0
質問13	4.8	4.9	4.0
質問14	4.8	4.9	4.0
質問15	4.5	4.6	4.0
質問16	4.7	4.8	4.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.7	4.8	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.4
質問20	4.0
質問21	4.3
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	吉田峰明	編曲法	10名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

平均値はいずれも4.0以上であったが、下位Gにおいて「教員の話し方」を低く評価した学生がいたのが気になった。ほんとにこの項目だけだったので、この先改善したい。思うに、編曲とは案外トータルな音楽力を養う科目であるため、話が専門的になりすぎたり、逆に非常に身近な話題となりすぎたりしやすい。その差になかなかついていけなかったのではないかと思う。私の方でもう少し整理して話ができるよう、工夫していく。他については「受講態度」を含めて問題なかったと思う。

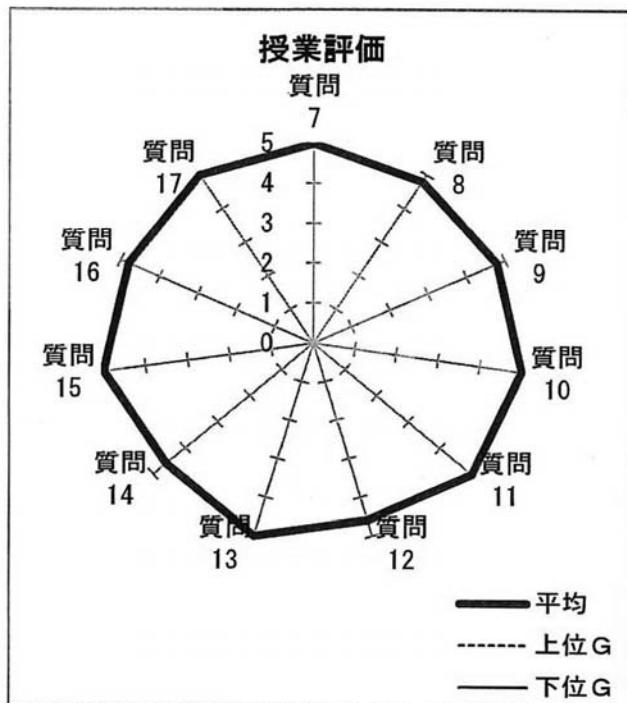
II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：ソルフェージュ

2017年度はこの科目の担当から離れていたが、また復帰するため、他教員と分担担当である科目との見地からもこの科目について行いたい。とりわけ今度私が受け持つクラスは習熟度において一層頑張っていただくクラスであるため、新たな指導法もいろいろ取り入れてみる。

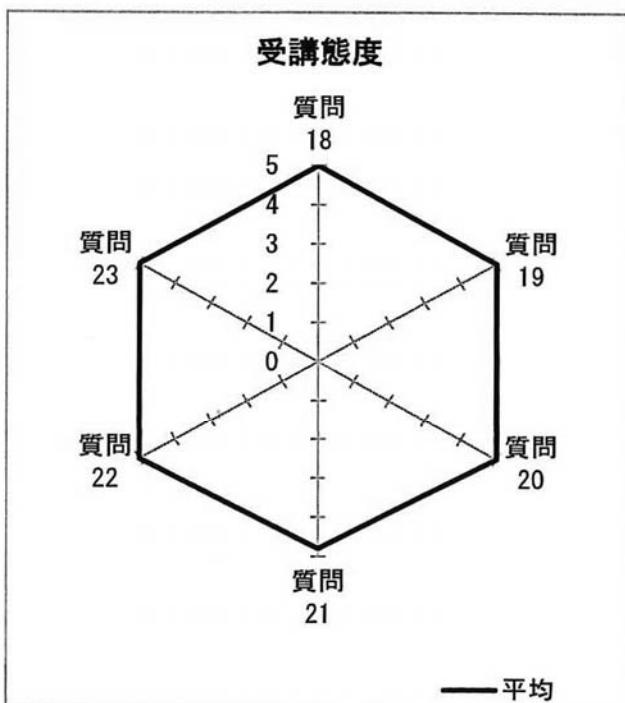
科目コード 419 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 藤重 佳久 吹奏楽実践



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.6	4.6	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.6	4.6	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	5.0
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	5.0
質問23	5.0
平均	5.0

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	藤重佳久	吹奏楽実践	5名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問7～17において、平均値が4.6～5.0（総合平均4.9）、質問18～23においては平均値が4.8～5.0（平均4.4）の範囲であった（上位G5名）。

・前期講義をふまえて後期は演奏を中心とした吹奏楽の知識を高めることにつとめた。前期同様に単位を必要とする学生のみならず必要としない学生も高い意識でこの講義に参加しておりその姿に感銘を受けた。

・吹奏楽の知識においても個々の差があるためシラバス通りに進めることは困難を極めるが、今後可能な限り適宜に計画的に講義を進めるためにその方法と改善策を研究していきたいと考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：吹奏楽Ia

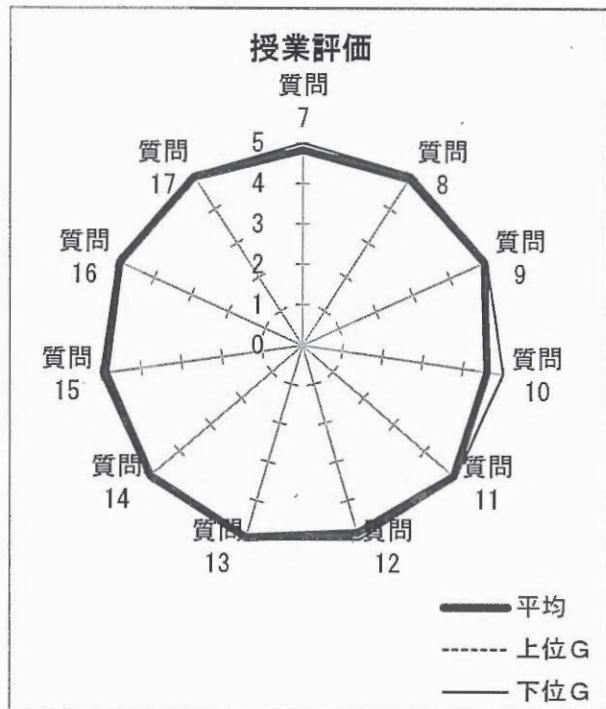
（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

・吹奏楽・マーチング等の本番をとおしてより実践的な演奏とともに、吹奏楽の現場（保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、一般バンド等）における指導者の育成も目指して具体的な指導法を身に着けていくよう講義を開展していく。

・上記のため個人が演奏する楽器にとどまらずさらに吹奏楽分野において幅広い知識を身につけていくように進める。

科目コード 420 (2017年度 後期)

音楽学部 音楽学科 三好 直英 吹奏楽 I a II a



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.8	4.8	5.0
質問8	4.9	4.9	5.0
質問9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.6	4.6	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.9	4.9	5.0
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

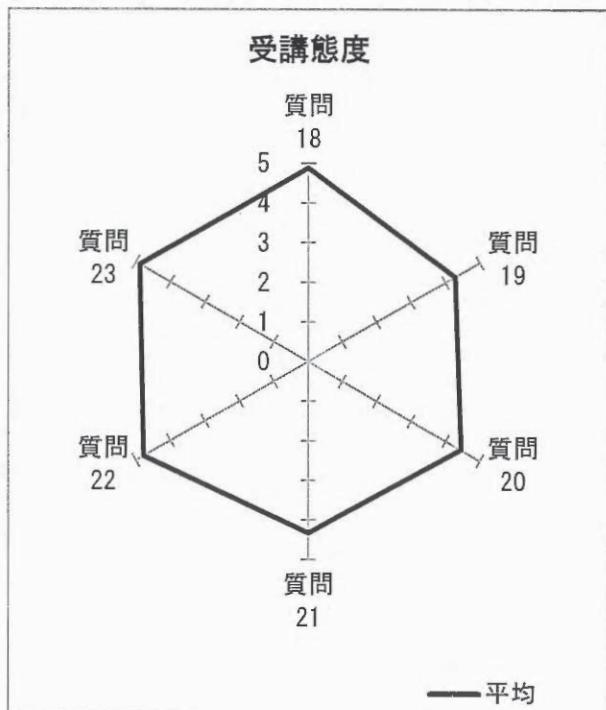
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.6

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	三好直英	吹奏楽 I a II a	18名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

- ・質問7～17において若干の差はあるものの、平均値が4.9（総合平均4.9、内上位G平均4.9、下位G平均5.0）、質問18～23においては平均値が4.3～4.9（平均4.6）の範囲であった（上位G17名、下位G1名）。
- ・楽器の初心者も多く上級者との技術差もあったが、合奏という実技的な要素の高いこの授業においては授業をしながら全体の様子をふまえて、練習の方法や、アプローチの仕方によってその差が週一回の授業でも縮まってきたように感じた。合奏に特化せずに教育現場において必要なスキルを身に着けてもらうように学生を中学校・高等学校の生徒にみたてて講義をおこなった。
- ・実技を伴う講義のために受講者が楽器演奏の習熟度に向いてしまう傾向にあるが、それだけではなく講義内容はあくまで教育現場において如何に対応していくかを実践的に学んでいく講義であることをさらに説明を加えて理解させることが必要とされる。この点においては前年度よりも前に進んだと感じられる。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：吹奏楽 I a

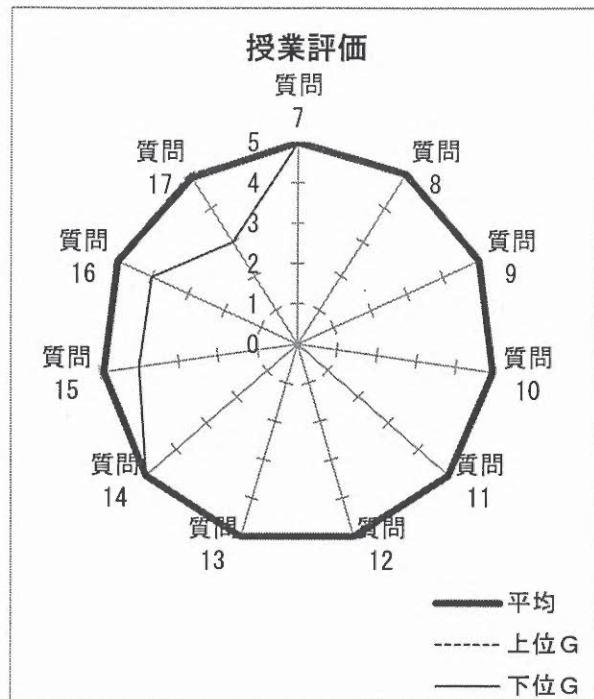
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- ・吹奏楽のリハーサル・本番をとおしてより実践的な演奏とともに、吹奏楽の現場（保育園、幼稚園、小・中・高等学校、大学、一般バンド等）における指導者の育成も目指して具体的な演奏法・指導法を身に着けていくよう講義を展開していく。
- ・個人が演奏する楽器にとどまらずさらに吹奏楽分野において幅広い知識を身につけていくよう講義を進める。

科目コード 658 (2017年度 後期)

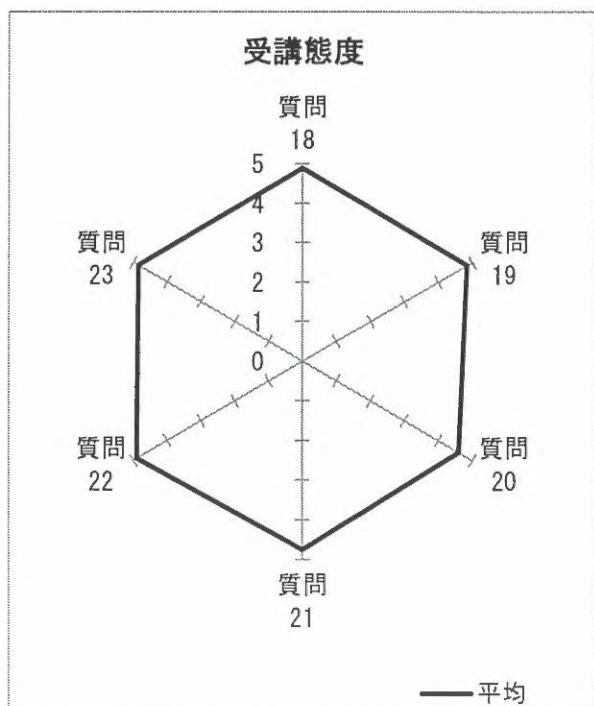
健康生活学部 食生活健康学科 阿部

麗 健康・スポーツ実技 I (子どもA1)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	5.0	5.0	5.0
質問 10	5.0	4.9	5.0
質問 11	5.0	5.0	5.0
質問 12	5.0	5.0	5.0
質問 13	5.0	5.0	5.0
質問 14	5.0	5.0	5.0
質問 15	4.9	4.9	4.0
質問 16	5.0	5.0	4.0
質問 17	4.9	5.0	3.0
平均	5.0	5.0	4.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.9
質問20	4.6
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自肃、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科 A	阿部 麗	健康・スポーツ実技 I	22

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の平均値が5.0、受講態度の平均値が4.8と、概ね良好な評価であった。

受講態度4.8という高い値の通り、授業に対して積極的、かつ、協働して取り組むクラスであったことが概ね良い評価に繋がったのではないかと考えている。

一方、全ての項目において、受講態度下位Gの度数が1あり、その中でも、質問15、16では、4.0、質問17では、3.0と低い値を示した。質問15、16は、主に「授業理解」、「興味・関心・意欲」であったが、回答は「どちらかといえばそう思う」であったため、大きな問題ではないと捉えているが、質問17の「新たな知識・技術・理論等の習得」については、「どちらともいえない」との回答であった。学生欠席回数から推測すると、これらの回答は、見学の多かった学生の意見である可能性が考えられる。

今回の評価を踏まえ、実技への参加が難しい学生（見学者）に対して、課題を与える、出来る範囲で授業への関わりを増やす等、授業を通じ学生の学びに繋がるようにしたい。また、「見学」にも期間や理由が個人によって異なるため、体育教職員で見学者の対応（課題や線引き）について、どのように対応をしていくべきかを協議していくことを想う。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技 I

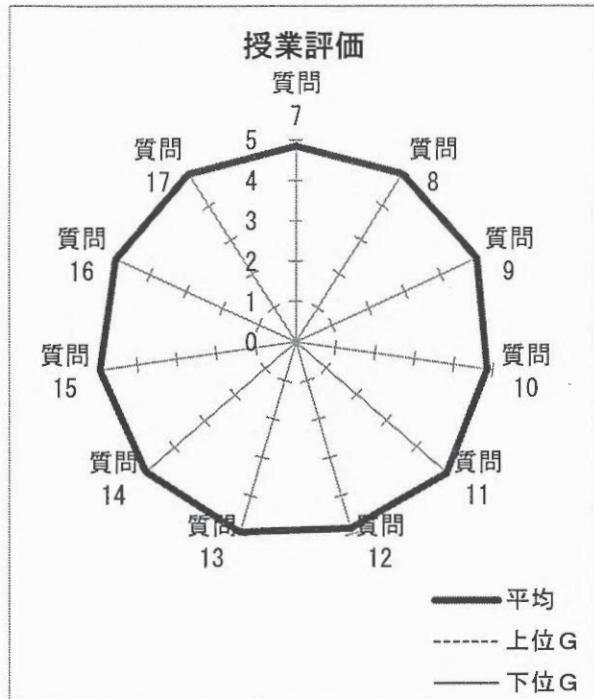
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I. 分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

科目コード 659 (2017年度 後期)

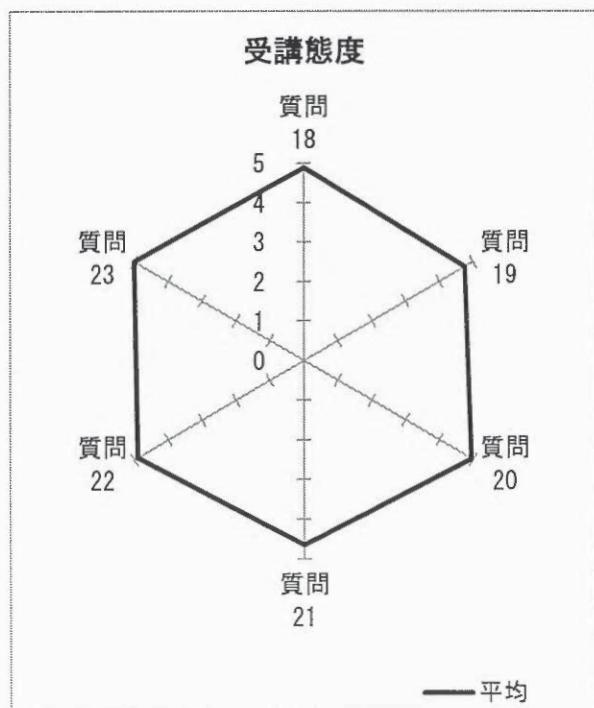
健康生活学部 食生活健康学科 阿部

麗 健康・スポーツ実技 I (子どもB1)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	5.0
質問21	4.7
質問22	4.9
質問23	5.0
平均	4.9

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	子ども学科B	阿部 麗	健康・スポーツ実技I	20

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価及び受講態度の平均値ともに4.9と、概ね良好な評価であった。

初回の授業で確認したところ、スポーツ経験者が多く、また、経験のない学生もスポーツに対して苦手意識の低い学生が多かった。また、協働して物事に取り組もうという雰囲気を持ったクラスであった。これらのレディネスが、ゴール型の集団スポーツの特性とマッチし、概ね良好な評価に繋がったのではないかと考えている。

授業評価については、質問項目7,10,12の3項目において、「どちらでもいえない」の度数が1であった。また、受講態度については、質問19,21の2項目において、「どちらともいえない」の度数が2であった。これらは主に、「目標の理解」と「予習・復習」に関する項目である。以前の授業評価アンケートでも指摘を受けてきた項目であり、目標（テーマ）の板書やトレーニング室等利用の呼びかけを行ってきた結果、評価は少しづつ上がってきていている。今回の評価を受け、明確な目標の説明に加え、授業終わりの到達度の確認、トレーニング室等の利用の呼びかけを定期的に行うことで、改善をしていきたいと考えている。

受講態度については、

II. 2018年度に向けての取り組み

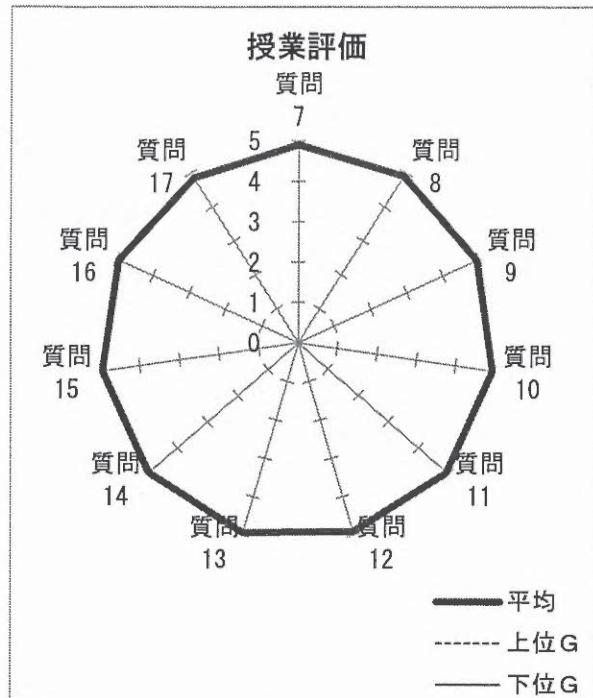
2018年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I. 分析と評価の下線部について取り組んでいきたい。

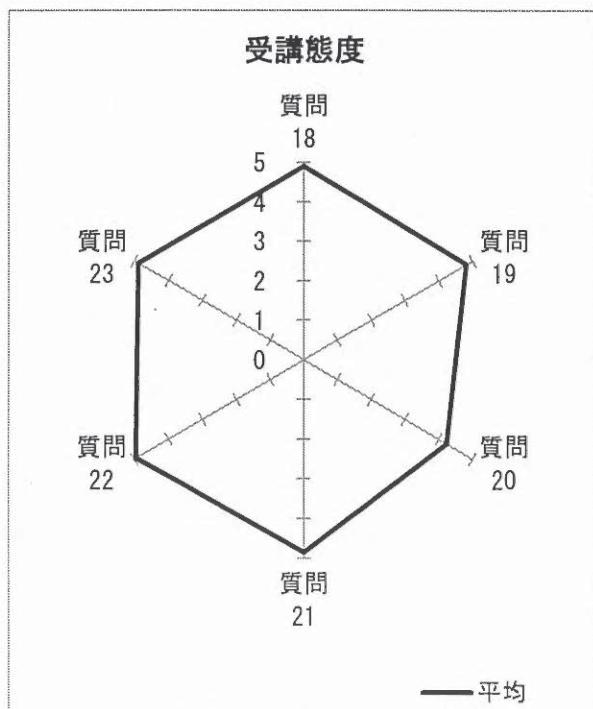
科目コード 663 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 裕也 健康・スポーツ実技 I (英語)



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.2
質問21	4.9
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.8

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	健康・スポーツ実技Ⅰ(英語)	36名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本授業の到達目標は、基本的な技術の習得やスキル向上を通して、運動・スポーツに親しむことと健康的な身体づくりができるようになること、チームごとに技術や戦術に関するディスカッションを行うことで他者と協同する態度を身につけることであった。内容は、体力測定、フライングディスク（アルティメット）4回、バスケットボール3回、ピロポロ3回、フットサル3回であった。授業評価は例年通りおおむねポジティブな評価を得ることができた。

スポーツが好きな学生、あまり好きでない学生もいたが、各種目で「できなかったこと」が「できるようになる」体験や友人とスポーツを楽しむことを通して、スポーツに対する認識を変容できたのではないかと考える。また、「スポーツ“を”学ぶ」だけでなく「スポーツ“で”学ぶ」という内容にできたのではないかと考える。将来、健康づくりのための行動の1つとしてスポーツを選択してもらえると期待する。

II. 2018年度に向けての取り組み

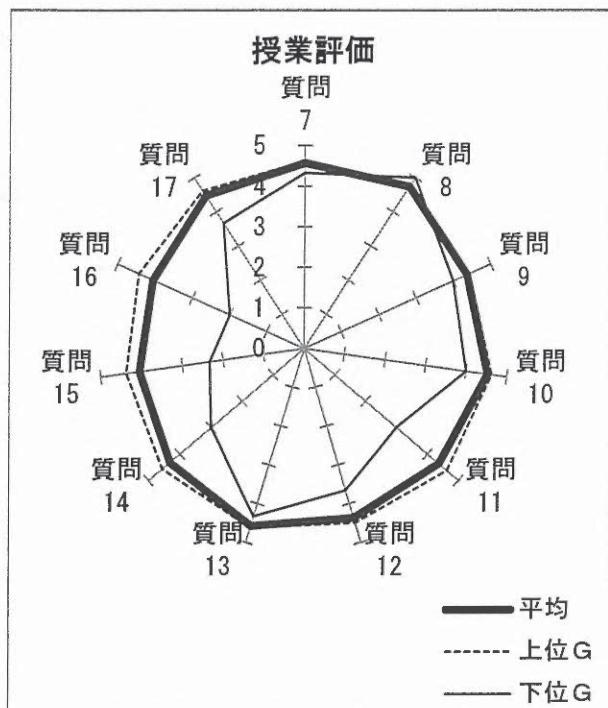
2018年度担当予定科目名：健康・スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

来年度以降も、運動・スポーツをより楽しむための技術習得やスキル向上ができるように教材や提示方法を工夫していきたい。運動・スポーツは必ず実施しなければならないものではないが、実施することで充実した生活につながる可能性が高いので、授業内外で運動・スポーツを楽しむ機会を増やせるように体育館の整備やスポーツイベント開催などを積極的に行っていきたい。

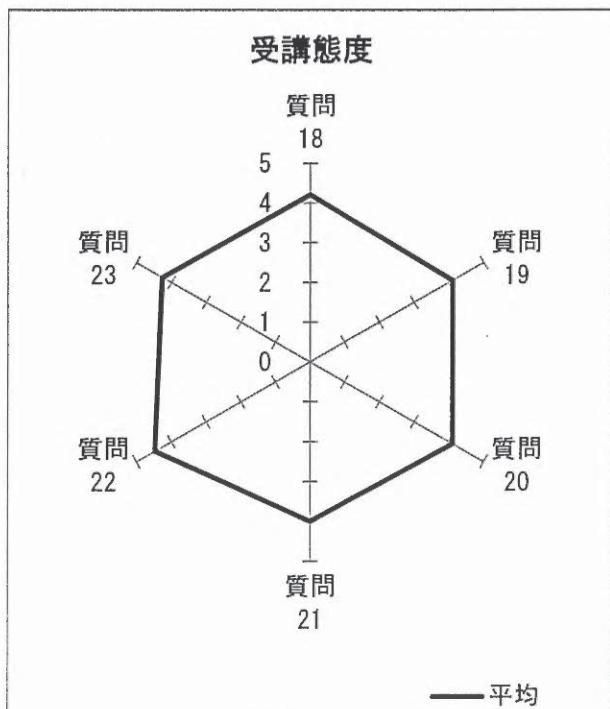
科目コード 766 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 宇佐美 寛 アプリケーション演習 I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.6	4.3
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.5	4.6	4.0
質問11	4.4	4.6	3.0
質問12	4.4	4.5	3.7
質問13	4.6	4.6	4.3
質問14	4.3	4.6	3.0
質問15	4.1	4.4	2.3
質問16	4.1	4.4	2.0
質問17	4.5	4.6	3.7
平均	4.4	4.6	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.1
質問20	4.1
質問21	4.0
質問22	4.5
質問23	4.3
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	宇佐美 寛	アプリケーション演習Ⅰ	20名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価の調査項目11項目（質問7～17）の評価平均は4.1から4.7の範囲に分布し、11項目全体の平均値は4.4であった。2016年度の「アプリケーション演習Ⅰ」の履修者は4名と少なかったため比較は難しいが、2016年度の授業評価と比較すると、2017年度は11項目全体の平均値が0.3ポイント上昇している。

2017年度は、2016年度の授業内容を一部変更した。具体的には、2016年度はExcelの応用として統計処理を取り扱ったが、2017年度は統計解析ソフトRを使用して統計処理を取り扱った。Rはキーボードによるコマンド入力が操作の中心となるソフトである。そのため、Rの使用は、一部の学生にとって少しハードルが高かったようだが、全体として一定の成果は得られたと考えられる。

授業評価での「授業の理解（質問15）」「興味・関心・意欲（質問16）」などの項目の数値から見て、授業の内容や進め方に関し、さらに工夫していく必要があると考える。

II. 2018年度に向けての取り組み

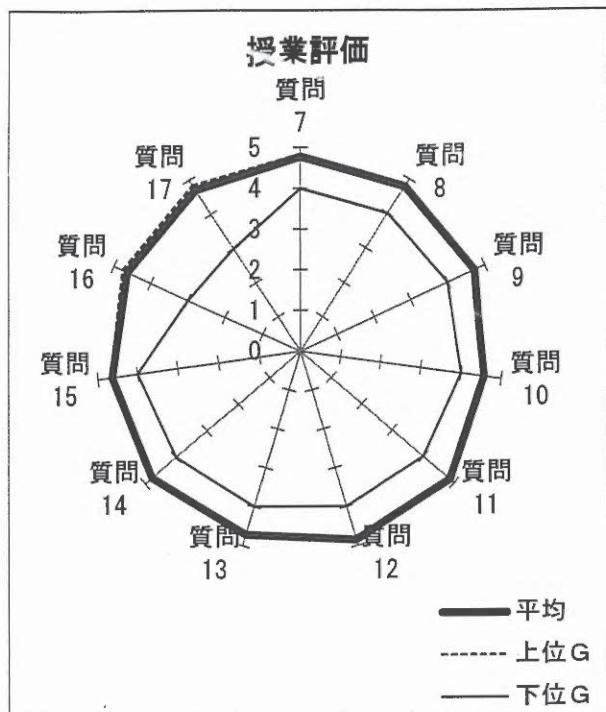
2018年度担当予定科目名：アプリケーション演習Ⅰ

統計解析ソフトRについては、操作でつまずく学生がいることから、Rを利用しやすくするための統合開発環境であるRStudioを使用する。また、Rによる統計処理への基本的な理解が深まるように、説明方法や演習内容をさらに検討する。

授業で用いている自作プリントと説明用のプレゼンテーションソフトのスライドについて、検討する。自作プリントは文章中心であるため、スライドで図や画像を積極的に取り入れるなど、プリントとスライドが互いを補完するようにして、授業の分かりやすさを高めるようにしていく。

科目コード 988 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 崔炳一 キリスト教学II



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.0
質問 8	4.8	4.8	4.0
質問 9	4.7	4.8	4.0
質問10	4.6	4.6	4.0
質問11	4.9	4.9	4.0
質問12	4.9	4.9	4.0
質問13	4.7	4.8	4.0
質問14	4.8	4.8	4.0
質問15	4.6	4.7	4.0
質問16	4.6	4.8	3.0
質問17	4.7	4.8	3.0
平均	4.7	4.8	3.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

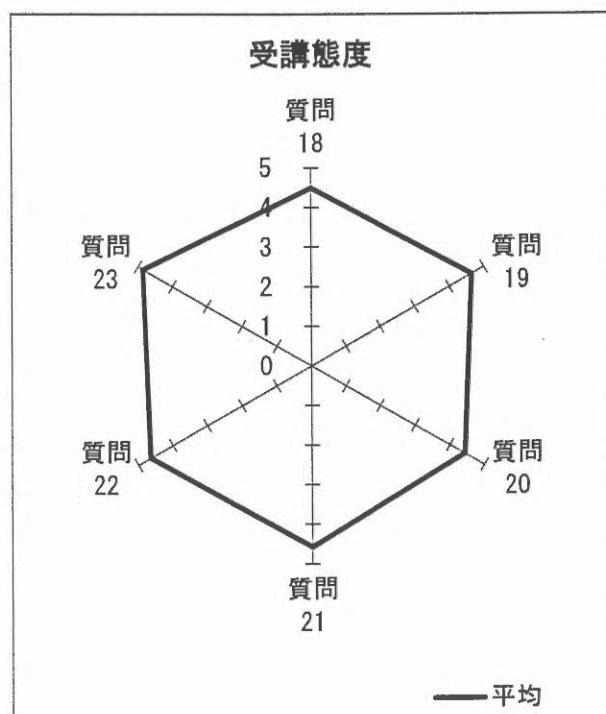
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.6
質問20	4.4
質問21	4.6
質問22	4.6
質問23	4.9
平均	4.6

質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	崔炳一	キリスト教学II	27名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回の評価を総合的に言えば、やや予想通りのまづまづの評価を得たと思う。第一回の授業のとき、シラバス、また授業の内容、進み方などについて行った説明が効果的だったと思う。また、授業に臨む姿勢、学生としてのマナーについては、オリエンテーションのとき説明をしたため、時間を割いて指導を行うことは特にしない。基本的なマナーに関しては学生本人に任せている。

今回の調査から分かったのは、適切な視聴覚資料および単元ごとくレジメを用いたのが有効だったことである。ほとんどのキリスト教になじみのない新入生の学生たちに、キリスト教への興味を持たせるために名画や音楽、またイラストなどを頻繁に用いたが、それによって学生の興味関心の範囲が広がったと思う。また、キリスト教を学ぶことに不安や抵抗感を感じないように比較的に取り組みやすい授業環境をつくることを課題としていたが、その取り組み、細やかな配慮が効果的だったことが今回の評価で明らかになったと思う。

今後は、学生の理解能力を考慮しながら、授業の全体的な難易度を下げること、そして難解なキリスト教的用語を使用できるだけ避けわかりやすいことばで説明し、もっと高い評価を受けるようにしたい。また、学生本人がもっと自主的に授業に興味をもちながら授業に臨めるように課題を出し、学生自らが日頃キリスト教の教えと向き合うように備えていきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

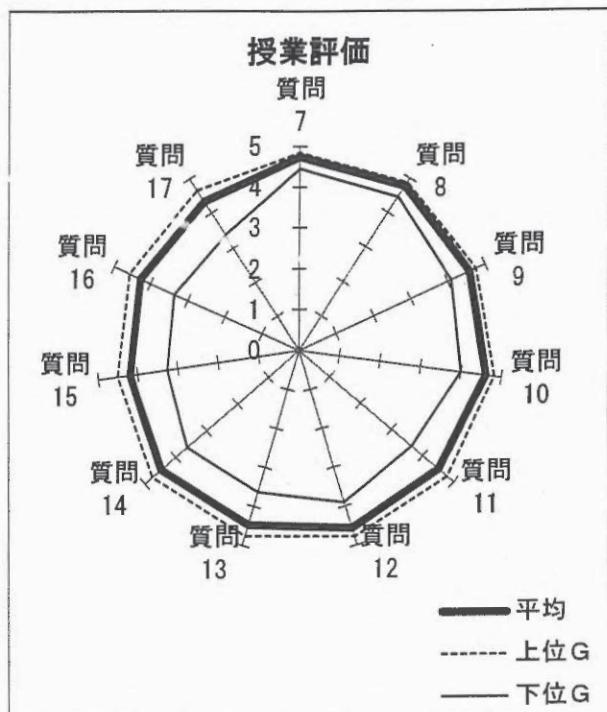
2018年度担当予定科目名：キリスト教学I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

1. 学生のレベルに合わせ、適切な視聴覚教材を有効に使用する。
2. できるだけ単元ごとにレジメや関連資料を配布し、板書技術の向上を目指す。
3. わかりやすい説明ができるように継続的に工夫する。
4. キリスト教的価値観を社会で活かせるように社会問題を多く取り入れる。
5. 新しい知識（生命倫理・生命工学）、技術、理論を紹介するように取り組んでいく。
6. この授業の目的に合わせて、キリスト教倫理についての最近の学説等を効果的に紹介していく。

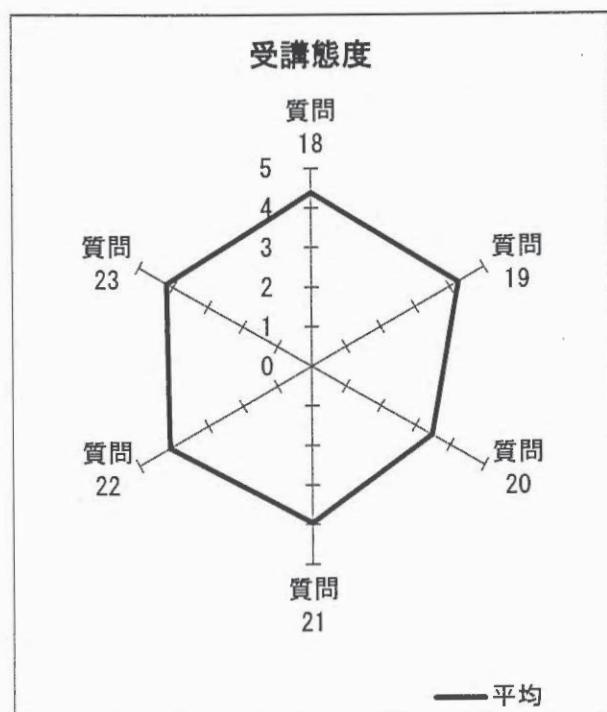
科目コード 989 (2017年度 後期)

看護学部 看護学科 崔炳一 キリスト教学IV



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	4.5
質問 8	4.8	4.9	4.5
質問 9	4.6	4.8	4.1
質問10	4.6	4.8	4.0
質問11	4.5	4.8	3.6
質問12	4.6	4.8	3.9
質問13	4.5	4.8	3.6
質問14	4.5	4.8	3.6
質問15	4.2	4.5	3.3
質問16	4.3	4.6	3.4
質問17	4.3	4.7	3.4
平均	4.5	4.7	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.3
質問20	3.5
質問21	4.0
質問22	4.1
質問23	4.2
平均	4.1

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
音楽学部	音楽学科	崔炳一	キリスト教学IV	22名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今回の評価を総合的に言えば、やや予想の通りのまづまづの評価を得たと思う。第一回の授業のとき、シラバス、また授業の内容、進み方などについて行った説明が効果的だったと思う。また、授業に臨む姿勢、学生としてのマナーについては、オリエンテーションのとき説明をしたため、時間を割いて指導を行うことは特にしない。基本的なマナーに関しては学生本人に任せている。

今回の調査から分かったのは、適切な視聴覚資料および単元ごとくレジメを用いたのが有効だったことである。ほとんどのキリスト教になじみのない新入生の学生たちに、キリスト教への興味を持たせるために名画や音楽、またイラストなどを頻繁に用いたが、それによって学生の興味関心の範囲が広がったと思う。また、キリスト教を学ぶことに不安や抵抗感を感じないように比較的に取り組みやすい授業環境をつくることを課題としていたが、その取り組み、細やかな配慮が効果的だったことが今回の評価で明らかになったと思う。

今後は、学生の理解能力を考慮しながら、授業の全体的な難易度を下げること、そして難解なキリスト教的用語使用をできるだけ避けわかりやすいことばで説明し、もっと高い評価を受けるようにしたい。また、学生本人がもっと自主的に授業に興味をもちながら授業に臨めるように課題を出し、学生自らが日頃キリスト教の教えと向き合うように備えていきたい。

II. 2018年度に向けての取り組み

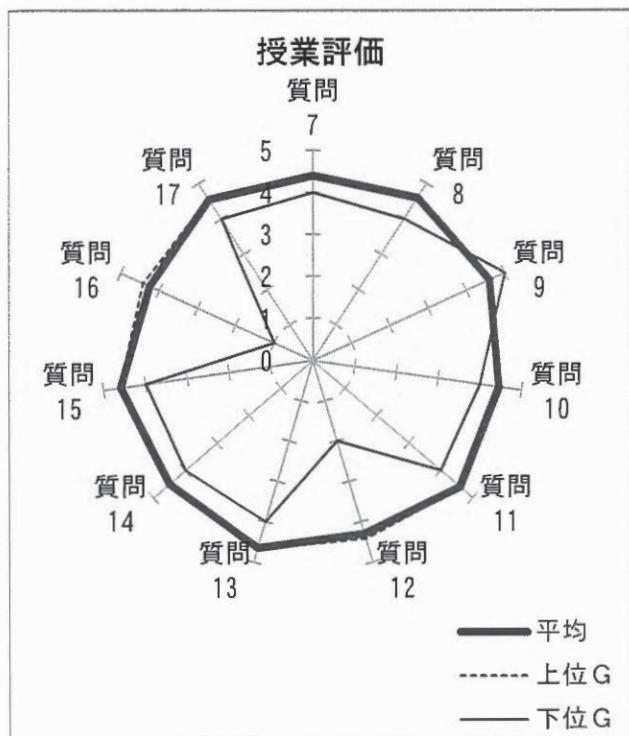
2018年度担当予定科目名：キリスト教学IV

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

1. 学生のレベルに合わせ、適切な視聴覚教材を有効に使用する。
2. できるだけ単元ごとにレジメや関連資料を配布し、板書技術の向上を目指す。
3. わかりやすい説明ができるように継続的に工夫する。
4. キリスト教的価値観を社会で活かせるように社会問題を多く取り入れる。
5. 新しい知識（生命倫理・生命工学）、技術、理論を紹介するように取り組んでいく。
6. この授業の目的に合わせて、キリスト教倫理についての最近の学説等を効果的に紹介していく。

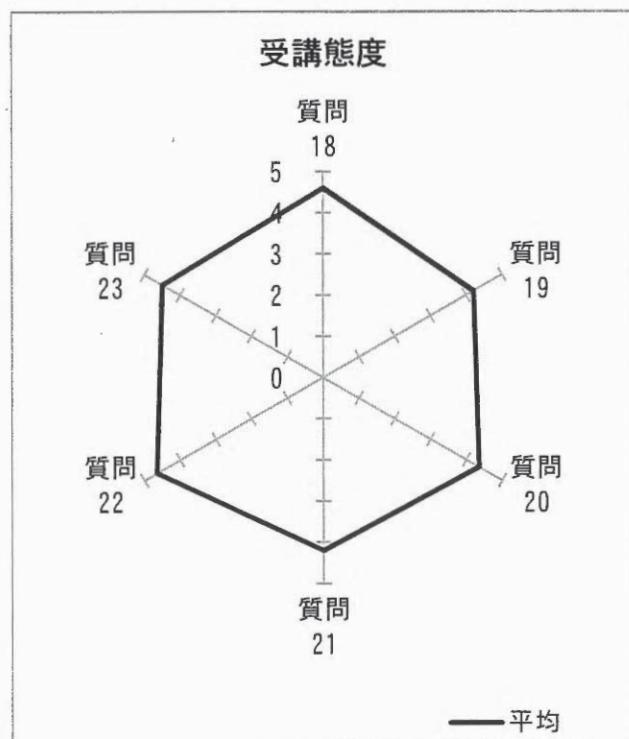
科目コード 551 (2017年度 後期)

健康生活学部 食生活健康学科 阿南 祐也 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.4	4.0
質問 8	4.6	4.6	4.0
質問 9	4.6	4.6	5.0
質問10	4.5	4.5	4.0
質問11	4.6	4.6	4.0
質問12	4.3	4.4	2.0
質問13	4.7	4.7	4.0
質問14	4.5	4.5	4.0
質問15	4.6	4.6	4.0
質問16	4.3	4.4	1.0
質問17	4.6	4.6	4.0
平均	4.5	4.5	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.4
質問21	4.2
質問22	4.7
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	食生活健康学科	阿南 祐也	教養セミナーII	21名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価アンケートを実施する際、「今後の教養セミナーを充実させるために遠慮や配慮をせずに思ったことを記入すること」「すべての授業で同じ質問項目が使われているが評価項目として妥当だと思うか」という問い合わせを学生に行った。その結果、「問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）」「問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか」という項目の点数が低かった。教養セミナーは受動的な授業ではなく、学生同士が意見交換をすることが重要となる。学生に対して教養セミナーは「インプットすることも大事だが、アウトプットすることを重視して取り組むように」と伝えて実施し、学生同士が話す機会を増やしていたことも授業環境に対する配慮の点数が低いことにつながった可能性が考えられる。また、問16については、他項目の「話し方」「説明のわかりやすさ」などの点数が低くないことから、授業での伝え方・取り上げ方というよりはテーマそのものに対する評価が含まれている可能性が考えられる。決められた内容を取り扱うだけでなく、来年度以降は各回の到達目標を明確化する工夫や授業内容+αの準備をして臨むことが求められる。

II. 2018年度に向けての取り組み

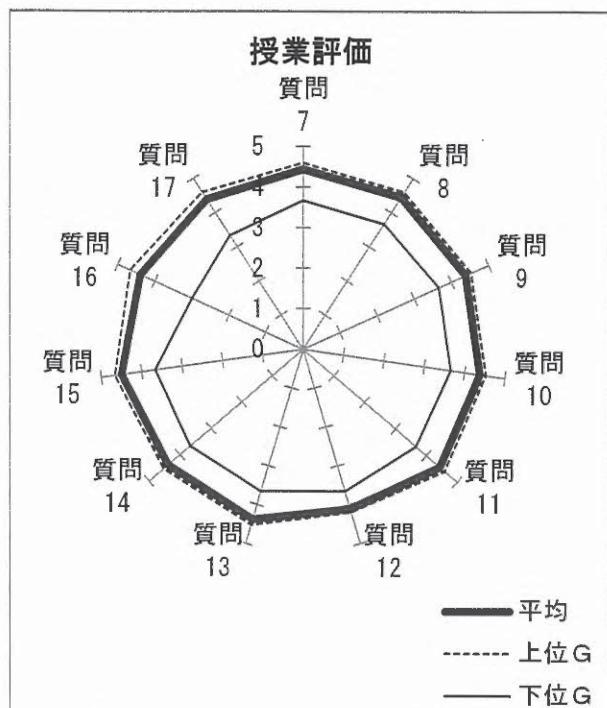
2018年度担当予定科目名：教養セミナーI・II

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教養セミナーで取り上げた「あるテーマ“を”学ぶ」だけでなく、「あるテーマ“で”学ぶ」という意識づけを行い、ただ覚えたり考えたりするだけでなく、思考の幅を広げられるような工夫を取り入れたい。そのようなアプローチを行うことで、2年次以降の大学生活での学びを深められる素地を作りたい。

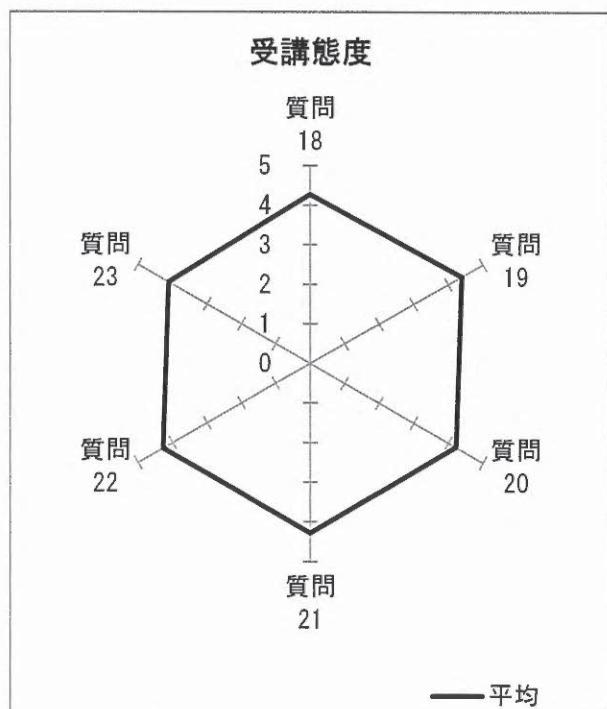
科目コード 554 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 香川 実成 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.6	3.7
質問 8	4.4	4.6	3.7
質問 9	4.4	4.5	3.7
質問10	4.4	4.5	3.7
質問11	4.4	4.6	3.7
質問12	4.1	4.2	3.7
質問13	4.4	4.5	3.7
質問14	4.4	4.5	3.7
質問15	4.5	4.7	3.7
質問16	4.4	4.7	3.0
質問17	4.4	4.6	3.3
平均	4.4	4.6	3.6

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.4
質問20	4.2
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.1
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
文系部	英語学科	香川実成	教養セミナーII	15

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

「教養セミナー」は毎年担当しているが、クラス運営や、クラス内の各グループを等しく動機づけることの難しさは程度の差こそあれ毎回あり、自らの力不足を痛感する。今回は特にクラス運営があまり上手くいかなかつた…という印象があったが、それが受講態度下位グループの評価に顕著に表れている。もっとも問題なのは、質問16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」に対する評価が3.0と極めて低いことである。そもそも受講態度についての上下グループがなくなるような、全員に対して動機付けができる授業を目指さなければいけない。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：教養セミナーI・II

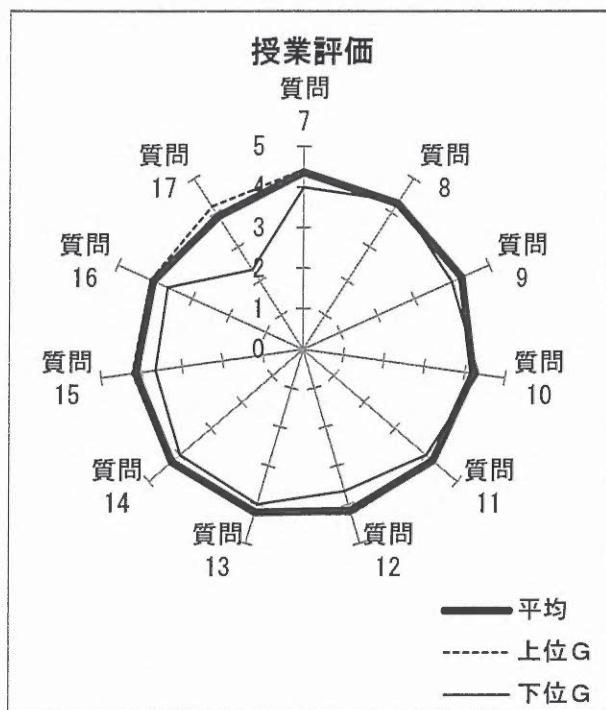
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今回の反省点は多々あるが、1つは、書き込み式のコースブックであるにもかかわらず、書き込み欄に意見や討論の結果を書かせる時間を十分に確保せず、また、記入のチェックも不十分だった。

次回担当する機会があれば、クラスの学生全員が書き込み欄にびっしり意見等を書けるよう、ヒントやアドバイスを出すよう心がける。またそのための事前準備も怠らないようにしたい。

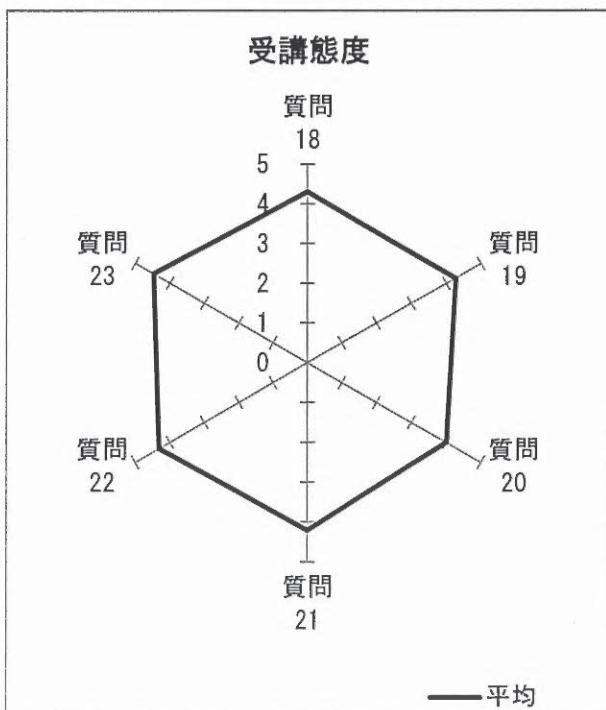
科目コード 555 (2017年度 後期)

文学部 英語学科 狩野 晓洋 教養セミナーⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.4	4.4	4.0
質問 8	4.3	4.3	4.3
質問 9	4.3	4.3	4.0
質問10	4.2	4.2	4.3
質問11	4.2	4.3	4.0
質問12	4.2	4.3	3.7
質問13	4.2	4.3	4.0
質問14	4.3	4.3	4.0
質問15	4.2	4.3	3.7
質問16	4.1	4.1	3.7
質問17	3.9	4.2	2.3
平均	4.2	4.3	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	4.0
質問21	4.2
質問22	4.3
質問23	4.5
平均	4.3

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
全学部	全学科	狩野 晓洋	教養セミナーII	20名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

<分析>

授業評価アンケートの結果から以下のことが読み取れる。

- ほぼ全ての質問項目で5段階中4の評価を受けている。
- 上位Gと下位Gの差はほとんど見られない。
- 雄一の例外は質問項目17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」で、この質問項目に対する評価は他の質問項目に対する評価よりも厳しく、上位Gと下位Gの差も大きい。

<評価>

際立って良い評価を受けたと言えないが、何か大きな問題があるわけでもない。概ねそれなりに納得のゆく授業内容であったと言えるであろう。上位Gと下位Gの差がほとんどなかったのは、毎回の授業内容がほぼ独立していたことも大きかったのではなかと察している。講義で特定の理論を数回の授業で紹介する場合、学生の出席状況や課題遂行の有無が本人の授業内容理解に大きな影響を及ぼす。授業内容がほぼ毎回独立していれば、普段の授業態度が内容理解に与える影響は少なく、上位Gと下位Gの差がないことにも納得がゆく。

受講生は以下のものを提出するように求められている。

- ① 3,000字以上の論文
- ② (夏休みのものも含め)100記事以上の新聞記事をスクラップして感想などを書く
- ③ 5冊以上の読書感想文

求められているものは決して少なくなく、消化不良を起こしてしまっている可能性もある。それが質問項目17の結果に表れていることもあり得るだろう。特に①のリポートや論文の作成は一回で習得できるものではなく、何度も場数を踏んで、担当教員から注意や指導を受けながら少しづつ洗練されたものになってゆくものである。

II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：教養セミナーII

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

教養セミナーは複数の教員が授業を同時進行させてゆくので、大枠は変えることができない。しかし、個人の決定が許される範囲で、論文の書き方についてもう少し力を入れたい。具体的に良い論文と悪い論文を複数持ってきて、なぜ良いのか(悪いのか)について話し合い、インターネット文献も含め、引用方法についてもう少し詳しく解説してゆきたい。